

繰り返すが、私は宗教の〇〇団体とか、〇〇教とか、〇〇宗とか、個別のものには特別な関心はまったくなく、もちろん入会もしていない。何か特別な心の傾けを以って信仰している宗派はない。基本は、神様・仏様・キリスト様を平らかに扱うことにしている。

四国八十八カ所霊場会においては、札所（寺院）で読誦・奉納すべき標準的な御経〔合掌礼拝、開経偈、懺悔文、参帰依文、十善戒、発菩提心真言、参味耶会真言、般若心経、ご本尊真言、光明真言、ご宝号、回向文、合掌礼拝、御詠歌またはご和讃〕を推奨しているが、それらをきちんと読誦したのは1回目の四国へんろだけである。

ここで、図－22を紹介しておく。2回目へんろ 2017(H29)年、^{つきやま}22日目4月25日（火）撮影、高知県大月町の月山神社手前の遍路道（山道）には、地元大月小学校の学童が描いた歩きお遍路さんに対する激励メッセージが木々にぶら下げられている。四国遍路は札所と呼ぶお寺を巡拝するが、同図とおり、高橋さんの絵柄には、鳥居の形が大きく描かれている。この他に何人も同様の鳥居を描いていた。子供達のイメージとしては、巡拝の対象が神社という錯誤ではなく、寺とか神社とかの区別なく、とにかく神様のような何か神秘的で偉大なものと写っているのだろう。寺のマークの卍を書いている人は誰もいなかった、子供達の感性に脱帽である、大人になってもこのような感性が大事である。



図－22

さて、2回目以降の四国へんろ、西国三十三へんろにおいては、図(表)－23のとおりで、仏様への経は紋じり、神社神道の「^{しんとう}祓^{はらへ}

^{ことば}詞」、基督教の「^み御言葉」をも唱えた。思い付きではなく計画時から決めていた。^{はらへことば}祓詞を唱える所作は前後に神道方式“二礼二拍手一礼”（柏手を打ち）、基督教御言葉を唱える所作は前後にカトリック方式“父（額）と子（胸）と聖霊（左肩）の御名によって（右肩）アーメン（指を組んで合掌）”と、顔と胸の処で十字を切る作法を以って対応した。

お寺でなぜ^{はらへことば}祓詞・御言葉なのか？ 神社でなぜ般若心経・基督教の御言葉なのだ？ と疑問を持たれると思う。人間のあるべき指針を啓示している象徴的な宗教としては神社神道、仏教、基督教だと考えて、神仏習合の姿が大好きな私は、シンクレティズム（syncretism；諸教混淆）を尊重し、そのような行動をとったものである。人によっては邪道（外道の邪見）だと語気を強める人は多数いるだろうが、私は意に介しない、当たり前の心・言・行なのだ。

なお、大師堂前で般若心経を読誦しない理由は、単に時間短縮のためである。

私は「崇仏敬神＝偶像崇拜」と憚らないシンクレティズムの者として、神仏の有りもしない^{すが}靈魂に縋るという考え方はさらさらなく、寺院や神社の本殿の前に^{たたず}佇む機会を利用し、自身内の『仏性』と『魔性』の二人自己対話をする時間・空間と見なしているだけである。

崇める対象	本堂前で読経 ^(註)	大師堂前で読経
仏（仏教）	般若心経	――
	光明真言 家族5人の戒名 お大師御宝号（3回）	
神（神道）	祓言葉	
キリスト（キリスト教）	御(み)言葉	
・般若心経（省略） ・光明の真言 おん あぼきやー べいーろしやのう まかぼだら まに はんどま じんばら はらばりたや うん ・亡き父母戒名 たぐげんりきとうとくのうこじ 拓原力斗篤農居士（亡父 力） ほうしゅんふようだいし 芳春富耀大姉（亡母 トミヨ） せいかくにちごうしんじ 誠覚日剛信士（亡弟 剛） しょうじょうまんしんじ 初陽成満信士（亡義父 初男） かがんみようせつしんによ 花顔妙雪信女（亡義母 花子） ・お大師御宝号 なむだいしへんじょうこんごう 南無大師遍照金剛		
・祓詞 はらへことば かかしこ いざなぎ おほかみ 掛けまくも畏き伊邪那岐の大神 つくし ひむか たちばな おど 筑紫の日向の橘の小戸の あわぎはら みそぎはら たま 阿波岐原に 禊祓へ給ひし時に な はら ど おほかみたち 成りませる祓へ戸の大神等 もろもろ まがごと つみ けがれあ 諸諸の禍事・罪・穢有らむをば はら たま きよ たま まを こと 祓へ給ひ清め給へと白す事を き め かしこ かしこ まを 聞こし食せと恐み恐みも白す ・御言葉 神よ 私は おごらず 高ぶらず 偉大な事 身に余る事を 求めようとしない 心静かに 私は憩う 母の手に 安らぐ幼子のように 心静かに 私は憩う 神の前にある 幼子のように		
図(表)－23		

(註) 西国三十三観音霊場へんろにおいては、^{かんのん ご わさん}観音御和讃を読誦した。

【No05－6】 [6] 地元の社寺に仁義を切ったお参り

これまでの徒歩へんろ（四国4回、西国1回）に当たっては、本番行程の前・後に、吾が地元の社寺（図－24）に対し、出発前日には無事を誓い、帰宅後の翌日には感謝報告を以って参拝し、納経して来た。私が崇敬している足元の社寺に対する礼儀・挨拶という意味である。



図－24

1. 吾が地元の村社「(宗) ^{がっさん}月山神社」

自宅から直線距離 170m 程の所にあり、図-25 のとおりのの小さな境内ではあるが、針葉樹と広葉樹が混在して鎮守の森を造形している。これでも宗教法人であり、神職無住ではあるが、少し離れた地区の瀧本光彦氏が宮司（代表責任役員）を勤めている。

祭神は「月読尊」である。毎年つぐよみのみことの例大祭（毎年の祭典）は、子供神輿が繰り出し 4 月 29 日（昭和の日）に実施している。

現状、法人格を有する『認可地縁団体』の吾が町内会（自治会）は宗教法人を直営していることから、

憲法の保障する信教の自由などに抵触しており、正常化を図るべきであると具体的な改善提案を行っている。



図-25

2. 菩提寺「新福山石行寺」しゃくぎょうじ

同寺は天台宗、私の亡き父母と弟が眠っている菩提寺である。また、最上三十三観音霊場第七番岩波観音（図-26）の別当寺（納経所）でもある。

同図写真のとおり、岩波観音の入り口（奥の御堂が観音堂）には何と昔のままの神社鳥居が結界している、本尊は十一面観音菩薩である。

昔は瀧山（竜山）信仰の中心として栄え、708 年行基菩薩が開山、慈覚大師が再興した歴史ある寺院である。

私のへんろにおいては、まずは、この岩波観音様を、次に同寺の本堂内でお参りして来た。

- ◎ 寺では御詠歌・和讃の会、オカリナの会、茶道の会を毎月 2 回ずつ開催している。
- ◎ そして、観音堂で毎月 20 日に副住職が護摩祈祷を行っている。



図-26

なお、図-27 のとおり、天台宗の石行寺本堂には、真言宗開祖の弘法大師像（空海）が、天台宗開祖の伝教大師（最澄）像と並んで祀られている。余談のこと、弘法大師は下段で伝教大師よりも位を下段に祀っているが、他方ではお参りする人に近いことを意味する。

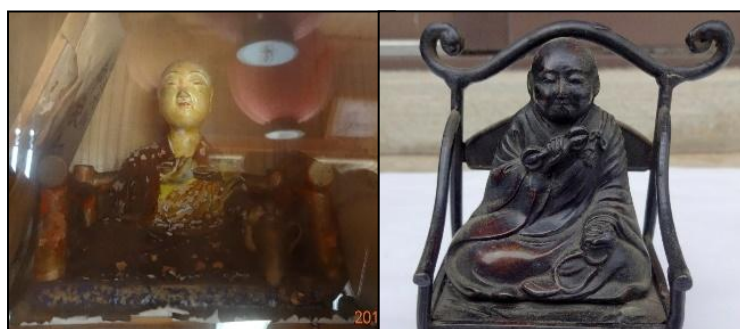


図-27a



図-27b

3. 佐藤さん宅の祭壇・お大師様



佐藤さん

図-28

私の隣家の個人宅である。当地区界限には、明治四十四年八月二十日に設定された四国霊場の写し霊場として『堀田（村）・滝山（村）八十八所霊場』がある。私の居住地区には、その中の5軒（図-28）が比定されている、佐藤さん宅は『85番八栗寺』を受け持ち、写真（同図中の『これ』）のようなお大師様の像を祀っている。

日常적으로世話になっているお宅であり、まずは吾が足元ということでお参りして来た。

なお、後半のへんろトレイルにおいて、ここ佐藤さんのお大師様への参拝は、上記四国3回・西国1回の計4回実施している。（四国へんろ4回目の時期は、体調不良で佐藤さんは対応不可となっている。）

4. お参りに係る御朱印

例示として、4回目四国へんろの時の朱印は図-29のとおり。



图-29

【No05－7】 [7] 順番通りの「貫中久」順礼

私の四国歩きへんろの打ち方は、「起承転結」の考え方を取り入れて、札所不定の順番に拘ったことについてである。

順打ち時のイメージは図(表)－30 のようになった。

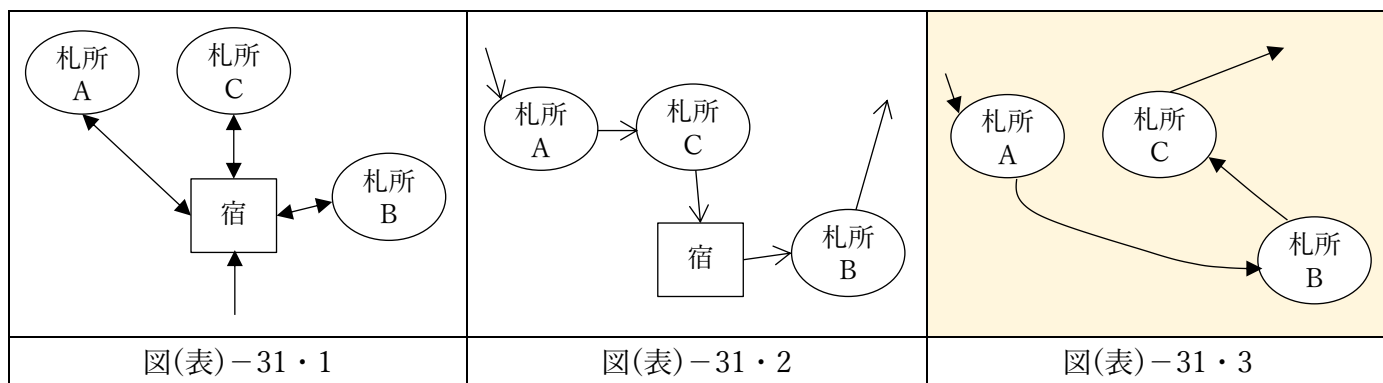
		札所不定の順番通り打つ					
自宅・地元 前工程	(移動)	現地スタート	順礼トレイル	現地ゴール	(移動)	自宅・地元 後工程	
		1 番	納経（札打ち）		88 番		
起		承・転			結		
図(表)－30							

四国八十八所霊場においては、御朱印には日付を入れてくれない。順序を問わずどこから納経してもよい、どんな巡り方をしてもよい、要は八十八か寺に参拝し、納経料金（300 円、あるいは 500 円）を納めて貰えればよいということなのだろう。しかし、販売されている納経帳には札所の順番どおりに御朱印スペース（余白）が取られている。

現地であるへんろ人から聞いたのだが、御朱印を間違っって別の所に頂戴した（例えば、納経帳の 50 番の所に 60 番札所のもの）とのこと。混雑していた中で、自分が間違っって開いて差し出し、それを納経担当者は確認もせずに押印してしまったということ。

往々にしてある事例を示す。図(表)－31・1 のようにある宿を拠点として、その時の気分で順不同ランダムに打つ、あるいは、同 2 のように、近い札所から打って行くというやり方である。

私は、そのように安直な対応は一度も取っていない。4 回全てにおいて、初めから順番どおりに埋まるように、順打ちでは「1 番→2 番・・・87 番→88 番→1 番」、あるいは、逆打ちでは「88 番→87 番・・・2 番→1 番→88 番」と、徹底して順番（札所不定の番号）に拘って打った。剣道精神「貫中久」、すなわち、初心貫徹を以って一つ一つの目標点を繋ぎ（中てる）、ついには結願を果たし、その心を忘れずにそれ以降の生き方に活かして行く精神を踏まえて私の取ったこの行動を「順礼**」と称している。きれいな打ち方を行ったという充足感が湧いて来る。**



(end)

「(社) へんろみち保存協力会」発行「管理編」に、「従来から遍路の間ではお礼詣りと云うならわしがある。本来打ち始めの札所へするのが建前であるが、行程の都合で最寄りの札所へ額づいて帰る方法もとられている。・・・高野山詣、一般に、遍路は四国巡拝に先立ち、あるいは満願後に高野山奥の院に参詣している。」と記述されている。

私は、お礼参りの行為については、「最後は閉じる」(最期・末期は閉じる)という意義付けをしている。言い換えると、円環成就をねらい起承転結の『結』と阿吽の『吽』の具現化の実践である、『結・吽』のないものは締まりがない、物足りなさを感じる。閉じる結があってこそその一気通貫で裏打ちされる「起承転結」であるという考え方である。四国へんろ4回、西国三十三所観音霊場へんろを1回行ったが、その5回に共通したことである。

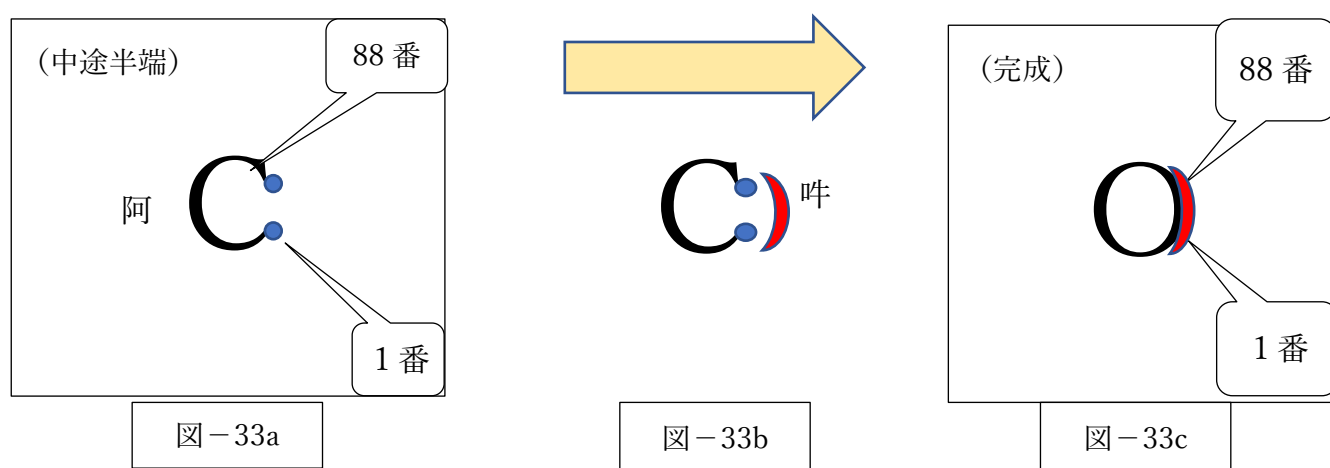
(1) 於四国へんろ

四国へんろの順打ち(1番霊山寺スタート ⇒ 88番大窪寺ゴール)においても、逆打ち(88番大窪寺スタート ⇒ 1番霊山寺ゴール)にしても、その二つの位置関係は図-32のとおり。順打ちに焦点を当てて説明するが、四国へんろの最終目標である88番を参拝し、いわゆる結願した人の殆どは帰宅の途に着く。結願が最終の目標・目的だから、成就・達成すれば「全て佳し」なのである。それでは、足跡(GPS軌跡・GPSトラックログ)において88番と1番の間が抜けるということになる。私は88番だけで終われば締まりがなく中途半端を感じるだろう、後悔が残る後々まで引きずるだろうと事前に想像が付いた。



図-32

88 番（逆打ちは 1 番）で終わる図－33a の形は、右側に隙間が生じ中途半端である。そこで隙間を塞ぐ必要があると考えた。塞ぐもののイメージ図柄を何にするか、三日月（同図 b）が浮かんだ。同図 a は英語の C のように口を開けた『阿』である。塞ぐ三日月を以って『呬』となる。完成したのは同図 c のようにまん丸の太陽である、目出度し目出度し。太陽の日は太陰の月とペアを組む。そのためには、結願寺の 88 番大窪寺から発願寺の 1 番靈山寺に歩き通さなければならないのである。そのようなことについてお天道様とお月様から指令を貰ったことから前記図－14 軌跡のとおり、約 43km を歩いて繋いだのである、丸 1 日がかかりである、2 日間を要したこともあった。この 1・2 日は人によっては意味のない無駄なことになるであろう。私にとって不可欠の意義深いものは、他人からすれば無意味ということになる。善悪を争う問題ではなく価値観の相違、見解の相違というものの、世の中の当然の有り様である。



（2）^{さいごく}於西国へんろ

^{さいごく}西国へんろ（図－34）も四国へんろ同様に「最後は閉じる」こと（closing）に拘った。1 番青岸渡寺をスタート、33 番華嚴寺で満願（ゴール）した。一般的にはここで終わりにする。しかし、私はその後、最寄りの^{こちぼら}木知原駅から伊勢神宮外宮まで電車移動し、同宮で参拝後、そこから内宮までの古道を歩き通し、参拝終了後、最寄りの五十鈴川駅から電車移動で、那智勝浦駅まで乗り降車した、翌日、そこから再び歩いて 1 番青岸渡寺に到着し、心の結願とした。同図において紫色の実線は、敢えて「閉じる」ことの行動を起こした GPS トラックログである。電車利用・歩行移動に伴う GPS 軌跡を以って「閉じた」のである。「閉じる」ことを実体験して見るに、そこで達成感を味わうことが出来た。

ところで、吾が人生（命）を閉じる^{まつご}末期のその瞬間に何が浮かぶだろうか？ “ あれもやった、これもやった、あの人に会って本当に良かった・・・ 満足、満足、大満足 ”で逝きたいと念じている。

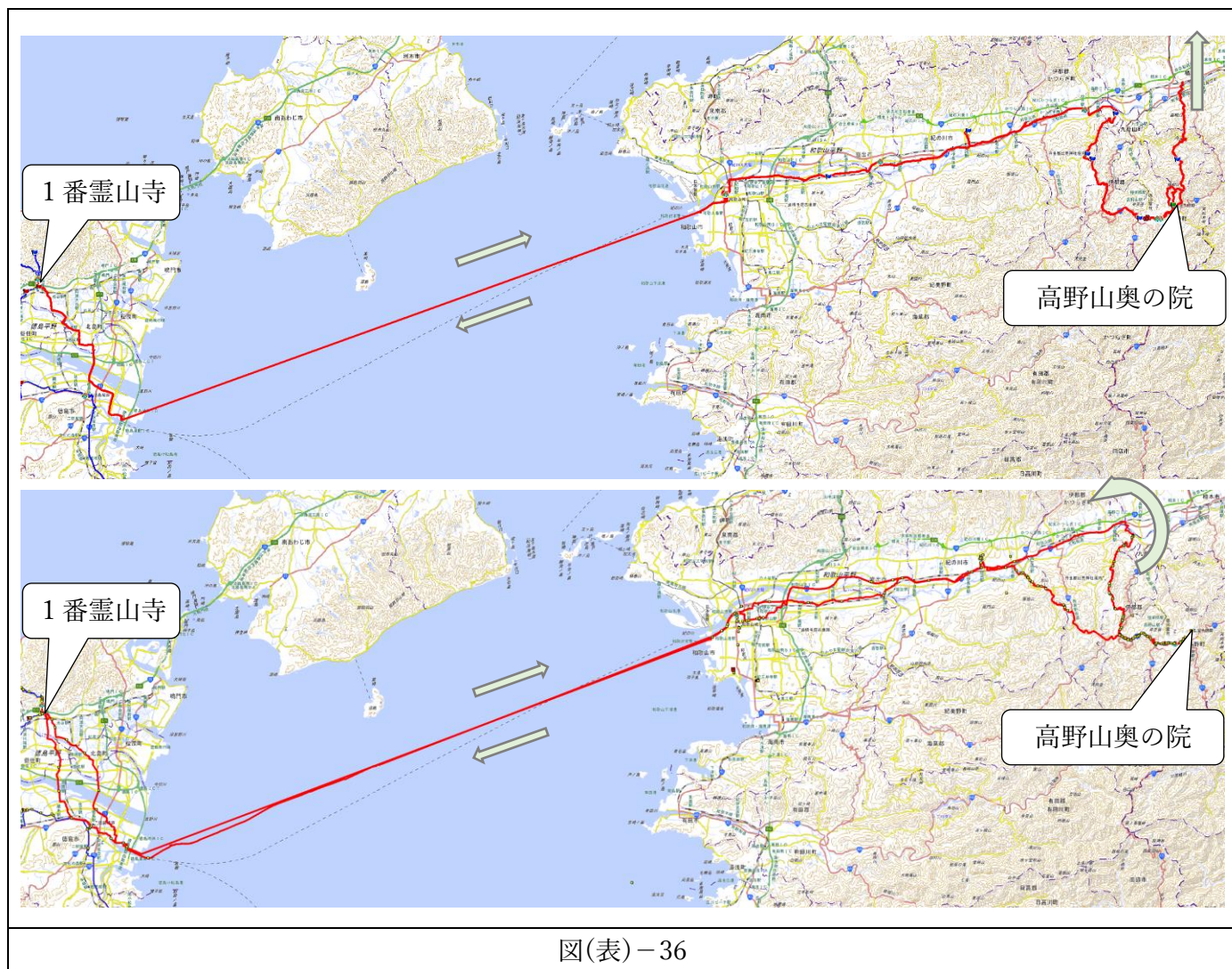


(3) 高野山参り

4 回の四国へんろに係る対応は図(表)-35・36のとおり。

1 回目へんろ	2 回目へんろ	3 回目へんろ	4 回目へんろ
鉄道利用により、高野山にはへんろの前後に参った。		へんろ終了後、引き続き 1 番靈山寺から歩き、徳島港から和歌山港間はフェリー、そこから高野山まで 3 日間掛けて歩き参拝した。	へんろ終了後、引き続き 1 番靈山寺から歩き、徳島港から和歌山港間はフェリー、そこから高野山まで 2 日間掛けて歩き参拝した。引き続き逆に引き返し 1 番靈山寺に戻り、さらに、與田寺経由の 2 日間掛けてスタート基点の 88 番大窪寺に戻った。これで全てを終えて帰宅の途に着いた。
		a	b

図(表)-35



図(表)－36

(4) 私の拘り

冒頭前出協力会のいうとおり、近年は、歩きへんろ人もお礼参りをする人は多くなっただろうが、私の取り組みは次の点で珍しいと思っている。

- ・単なるお礼参りではなく、きちんと意義付けを図ったこと。
- ・へんろ4回の全てをアップダウンがあって標高 320m の大坂越、卯辰越の、あえて難儀なコースを選択したこと。88 番と 1 番を繋ぐコースには平坦な 10 番切幡寺経由もあり、大半はこちらであろう。また、複数回の遍路人にしても大阪越えは僅かであろう。
- ・高野山までの片道を歩いた、あるいは、歩いて往復したこと。こんな人はいただろうか？

(5) 「閉じる」ことのもう一面

a. 宗教学者の山折哲雄氏はその著書「山折哲雄の新・四国遍路」(PHP 新書)の中で次のように述べている

——「 四国霊場、西国霊場、千日回峰行など日本の巡礼はすべて右回りの円運動になっていることに注目したい。これに対して、世界遺産に登録されているスペインの『サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路』などキリスト教、イスラム教の巡礼は自分たちの神や宮殿だけを参拝して戻る往復運動です。 」——

山折さんのイメージしている円運動とは、図－37a の形なのかもしれないが、私のへんろに係る円環と

は、あくまでも同図 b あるいは同図 c のような形成を指している。巡礼路において閉じるのだ。同図 17a では私の本意とはまったくかけ離れてしまう。

b. 出発する前と帰宅後における吾が地元の寺社 2 か所に対する畏敬参拝について。一つは村社「(宗) 月山神社」、二つ目は菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第七番岩波観音」である、四国へんろ 4 回・西国 1 回の計 5 回の歩きへんろにおいては、行き（往き）と帰り（復り）に当たっては、同じ寺社について逆の順序で参拝の「閉じ行為」(closing)を行った。その上でご御朱印を貰っている。

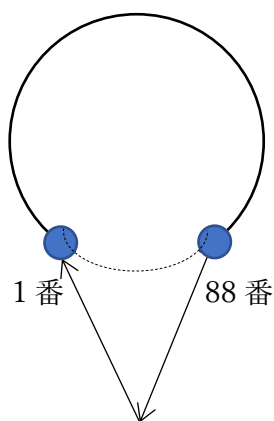


図-37a

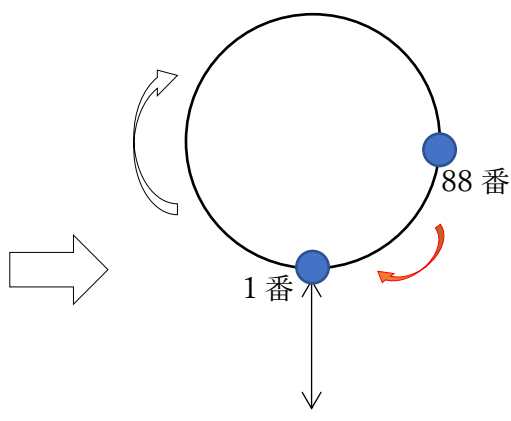


図-37b
<順打ち>
1 → 88 ⇒ 1

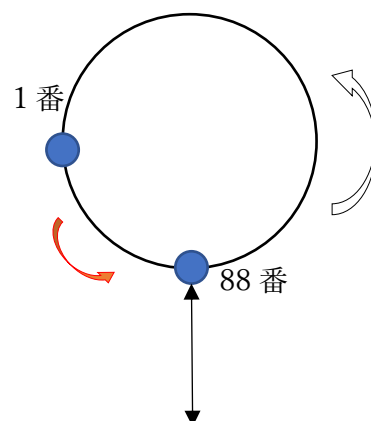


図-37c
<逆打ち>
88 → 1 ⇒ 88

なお、私の居住地には『堀田村・滝山村八十八所(写し)霊場』が設定されており、お隣の佐藤さん宅は 85 番八栗寺が比定されている。そごて、四国 2・3 回目、西国巡礼においての 3 回、参拝し、ご御朱印代わりに、白衣に署名・捺印して貰った。

(6) 「閉じる」に敢えて拘る理由はなぜなのか

陰陽二元相対（待）性原理が頭にある。「陽中陰あり、陰中陽あり」の世は、「宇宙の始まり（存在の発生）の言葉『阿』（開ける）、陽」と、「終わり（存在の終結）の言葉『吽』（閉じる）、陰」の正反対二つが一对で一つを成す、すなわち円環を為して完成するものである。この原理に外れれば当然満足は得られない。何事も「起承転結」のけじめ・節目が必要であると思っている。最後は閉じてこそその完結である。

前記図-17a イメージで終わる人——“ 次回は 1 番と 88 番を繋いで閉じてみよう！ ” という人 ” は、何事に付けて、“そのうち、そのうち”が口癖、この言葉を平気で乱発する人は、そのことを永久に実行しない・出来ない、性格的に胡散臭く誠実でない人である。なぜ、胡散臭いと言えるのか、対象のもの・ことに完結の節（魂）を入れていないのだ。外面的には閉じたように見せかけてその実は閉じていない、つまり、外面的には実行したように見せ掛けて、その実は実行していない詐欺師性格の片鱗を漏らした証左である。

また、陰陽とくれば、女と男の出番である、凹凸を持ち合い互いに結び合い、開いている所を閉じてこそその子孫繁栄、五穀豊穰というものである、片思いは成らないのである。

（７）仏教と神道に繋がること

よく仏の世界は円環的で、神道の世界は直線的と言われる。

前者仏教（仏堂）施設についての多くは、一般的には、お寺の中に入ると、ご本尊を祭る逗子・内陣（その中は簡単に見せない。）の中央祭壇を裏側まで回ることが出来る。三重の塔とか五重の塔もそうである。仏教を様々な仏像を以って可視化している、開放的でオープンな様相である。

後者神社（神殿）施設についての多くは、一般的には、鏡が置かれている最奥の神殿に向かって、その手前の拝殿から拝むだけになる、回るようにはなっていない。神社神道においては、元々神様は隠れている・隠しているものであることからは見えないのだ。閉鎖的でクローズドな様相である。

そのように寺社の性格の一面においては、動系の円運動と静系の直線（往復）運動との対極的な関係にある。

宗教の何とやらを強く意識しようがしまいが、現代において国民の日常生活に溶け込んでいる宗教施設は間違いなくお寺と神社である。我々庶民は、神仏とその施設を自己都合に合わせ、動と静を、回転と往復の動きを上手に柔軟に使い分けている。直線の両端を結べば円になり、円の任意点を切断すれば直線になり、同じものである、メビウスの帯も見方は同類である。陽中陰あり・陰中陽ありの陰陽相対（待）性原理が溶け込んでいる世界で平民は活躍しているのだ。あえて、庶民とか平民という言葉を使ったが、その訳は、一部の専門馬鹿――つまり、神職や僧職で偏っている者を揶揄するために対比的な表現を取ったものである。

根本的に、陰陽が混在する私においては、常々に左右（上下、あるいは前後）対極を意識せざるを得なく、対称的な相関にある神仏に接触する機会にあれば、すなわち「後半、へんろトレイル」に当たっては、意図的計画的に寺院のみならず関連所要の神社への参拝も行って来た。日頃から「神・仏・キ混淆、神・仏・キ習合」のシンクレティズムは私の中では当たり前のだから。

タイトル「起承転結・阿吽で円環成就」は、憧れ・夢を形にしたいという願望・思いの実現化の最後の行動であったのだ。

(end)

4回（別年単位で4巡）の四国歩きへんろについて、記録報告書を作成しているが、その件名に“[松陰・六部・童財善子] もどき”と記述しているが、その根拠を整理する。歴史上に名を遺した3人の廻国遊行から絞り出された生き様に傾倒・心酔し、重なると思う処があること、あるいは、憧れの対象人物であることからの意味合いである。

#1 「吉田松陰」

全国を遊行した幕末志士（長州藩）の一人。私が大好きな吉田松陰の心意気を象徴する二つの姿勢がある。

一つ目、松陰が松下村塾でモットーとした「飛耳長目」。

耳を飛ばして、目を遠方（長）に！ その意味合いは、遠方のことをよく見聞する耳目を持って、物事の観察に鋭敏であれ、ふつふつ湧き上がる好奇心に従順であれ、ということだと思ふ。垂直指向の「高いアンテナを張れ」という教えもあろうが、私の及ばざる処。水平指向の「飛・長」を摘み出し、遠近の旅に出たいという心を重ねて学んでいる。

二つ目、司馬遼太郎の著書「世に棲む日日」にある一節。

「・・・松陰（吉田松陰）の旅は、このようである。ゆく先々の蔵書家から書物を借りて読み、人物がいたら聞けばそれを訪ねて意見を聞き、いわば花から花へ移る蝶のように自分自身を移動させつつ、そのようにして蜜を吸ってゆく。・・・」

松陰の姿勢に感動するが、遼太郎さんの紹介が素晴らしい！ どこかの管理職や「何とか長」みたいに、デスクにしがみ付いて、「君、君・・・」と『指先と口先だけ』で部下を動かそうとする人とはまったく違う。「知行合一」を原理原則に据えた自らの実行である。

#2 「六十六部（六部）」

六部とも、日本回国行者とも、日本回国大乘妙典六十六部経聖と称されている。元は日本全国66か国を巡礼しながら、1国1か所の霊場（必ずしも固定したものではなく、一之宮、あるいは国分寺、あるいはその他の社寺も含め）に法華経を1部ずつ納める宗教者のことをいう、いわば、国全土を聖地とみなす思想に基づいた巡礼とも言われている。自然や神仏に同調・同化したいと念じたのだろう。

「村山民俗第36号」（2022年7月16日発行・村山民俗学会）の中に「流浪の六部 喜平治の行跡（市村幸夫氏著）」という段がある。

喜平治の行跡について、同書より簡潔に要点を抽出する。

・・・天保四年（1833）年、天童生まれの喜平治という男が六部として、廻国巡礼に赴き、九州は杳尾村に回った際、杳圓寺から得度を受け、隣村の猪熊村の庵寺に起居することになる。俳句などを嗜み村人と交流を深めていたが、安政六（1859）年四月帰らぬ人となった。・・・天保四年（1833）年八月に天童を立ち四年にわたる巡礼の途次、豊前国杳尾村に滞留・・・杳尾村に滞在すること八年・・・平凡な一人の六部の死は、多くの人の善意によって葬儀や後始末が行われた・・・



図(表) - 2

その中に次の和歌（連歌）が載せられている。

世の垢を ^{あか}去バ涼しキ 雲の上 順道（喜平治）

さしなき風に 蓮の香^{こう}バシ 香圓寺（樂山）

私の直訳的な理解は次のとおり。『世』は娑婆・社会であろうが、『餘（われ）』をも勝手に重ねて解釈する。 *** 精一杯の六部活動や寺院奉仕の生き方を通して、煩悩を少しでも取り払うべく精進努力を続けて来た今、死に直面するこの時に至っても、雲の上に出たような気分——雲の上に出れば、塵埃のない清浄無垢の青空が一杯広がり、天空の夜空は星が煌めき、涼しきそよ風（さしてもない風、取り立てていうほどでもない風）に蓮の香ばしいかおりが乗って漂って来るような空気に包まれ、晴れやか・爽やかな心持ちになっている、悔いはない、思い残すことはない。 ***

図(表)－3

喜平治の所期の志は、諸国の神社仏閣を拝禮・行脚し、無事帰郷することであっただろうが、遠地はるばる、旅の途次に縁が生まれ、そこで新たな人生を育み、そこに命を捧げるに至ったプロセスは、まさに幕末期の僧「月性」の生き方—— ^{まさに東遊せんとして壁に題す} 將 東 遊 題 壁 ——と一致するではないか。旅先で様々な人々との接触があり、自らの修行と共に、今でいう地域活動もしながら日本全国に仏道を広める利他行の実践だったのである。

3 「童財善子」

実在の人物ではなく仏教説話のキャラクターで、華嚴經最終章「入法界品」に登場する求道物語の主人公のことである。場面は七宝で莊嚴された祇園精舎僧園の中に普賢菩薩と文殊菩薩を上首とする法会から始まる。童財という少年が、仏道——悟り（菩薩）の境地を求めて、53人の良き師友を訪ねながら修行の旅に出る。師とされる者は、菩薩・比丘・比丘尼・長者・女性信者・仙人・娘・少年・国王・商人・漁師・職人など様々な立場の人が修行する。最終段において、^{にゅうほっかいぼん} 51 弥勒菩薩（菩薩の最高位）、52 文殊菩薩、53 普賢菩薩に会い、つまり、初めに戻った、円環修行の末の原点回帰を以って終結としている。

例えば、最初の師「功德雲比丘」は色々説いた後、“・・・他に私の到底及ばない仏法が無量にある。そこで貴方は、次の善知識（師）を訪ねて行きなさい・・・”と諭した。次の師「海雲比丘」は色々説いた後、“・・・私が会得している仏道はただこの一法に過ぎない。どうしてその他の行道を知ることができようか。 次の善住という比丘を訪ねて行きなさい。・・・”と諭した。

童財を導くはずの師については、仏道を離れた人までも、社会的身分や職業の貴賤なく登場させ、それらの師も自らに謙虚であり、決して、自説が絶対唯一で正しいなどとする独善・傲慢な者は一人もいない、また、師が師をリレー式に紹介する。しかも、童財が教えを一方的に乞うのみ、師は一方的に教えるだけ、ではなく、共に学び合う姿を描いている。立場・身分を超えて教えたり教えられたりである、まさに、太陽と太陰、お日様とお月様の関係、お日（陽）様は照らし、お月様は照らされて明るくなる。太陽は月に対し“もっと大きくなれ”とか、月は太陽に対し“もっと俺の方に強く当てれなどと言わない。”あるがままを認め合い、強弱・優劣の関係は生じ得ない。赤心純真な少年の物語、何とも言えない素晴らしいシチュエーションである。まさしく、吉田松陰や六十六部の生き様とぴったり重なる。

(end)

1. 四国「遍路転がし」

四国八十八か寺霊場巡りの参詣道において、特に難儀を要する急な上り下りの急坂を伴う山道、起伏の大きい山道を四国では『遍路転がし』と称しており、これについて整理した。

図に記述した区間距離 km は、歩行ルートに沿った凡その沿面距離であり直線距離では無い。また、図中のくねくねの赤い実線は私が携行・ハイクした GPS 軌跡（トラックログ）である。

（1）阿波は徳島県内

「一に焼山（12 番焼山寺）、二にお鶴（20 番鶴林寺）、三に太龍（21 番太龍寺） 遍路泣く」と呼ばれた。

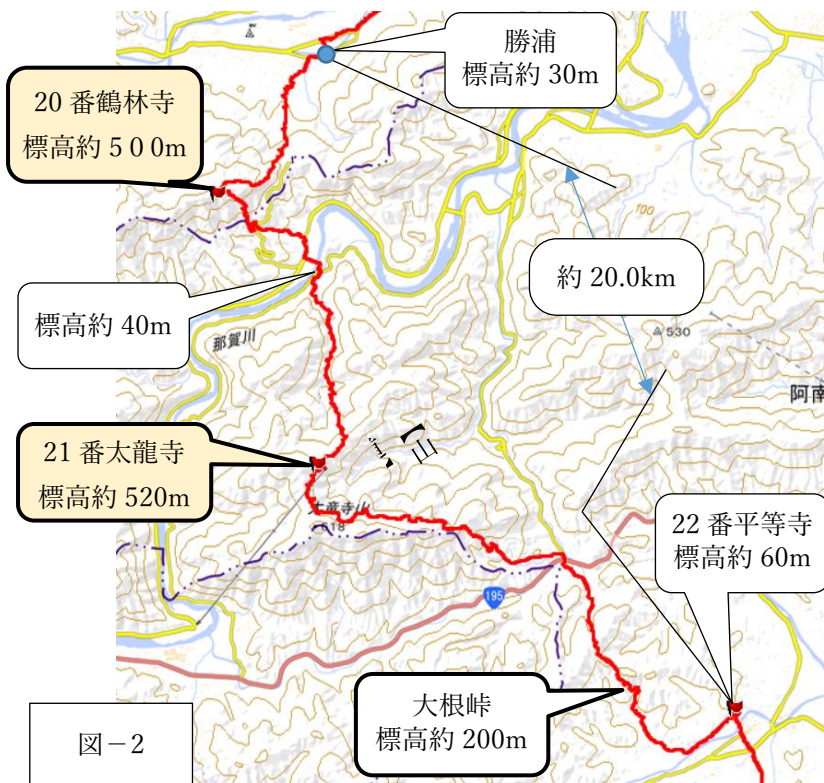
一般の遍路人の歩き方で、焼山寺越えは――図-1 の 12.9km は未舗装が連続する山道としては最長、遍路転がしのシンボルの存在――1 番霊山寺スタートから 3 日目あるいは 4 日目に当る。



図-1

また、図-2 の鶴林寺・太龍寺越えは、1 番霊山寺スタートから 6 日目あるいは 7 日目に当る。

全周 45 日間前後の中でのスタート直後、まだ、足が・身体が慣れていない内に過酷な試練に晒^{さら}されるのだ。これが四国遍路の醍醐味。ここを歩き通せば、まずは第一関門突破（通過）である。



(2) 土佐は高知県内

a. 「かどや やきざか そえみみず」
(図-3) と呼ばれた。須崎から土佐安和までの角屋峠は、最新の「へんろみち保存協力会編」の地図には記載なく、現地でも案内されていない、今はトンネル通過が一般的になっている。よって、本地図には記載していない。





図-4

図-5～図-7の山道も素晴らしい古道である。

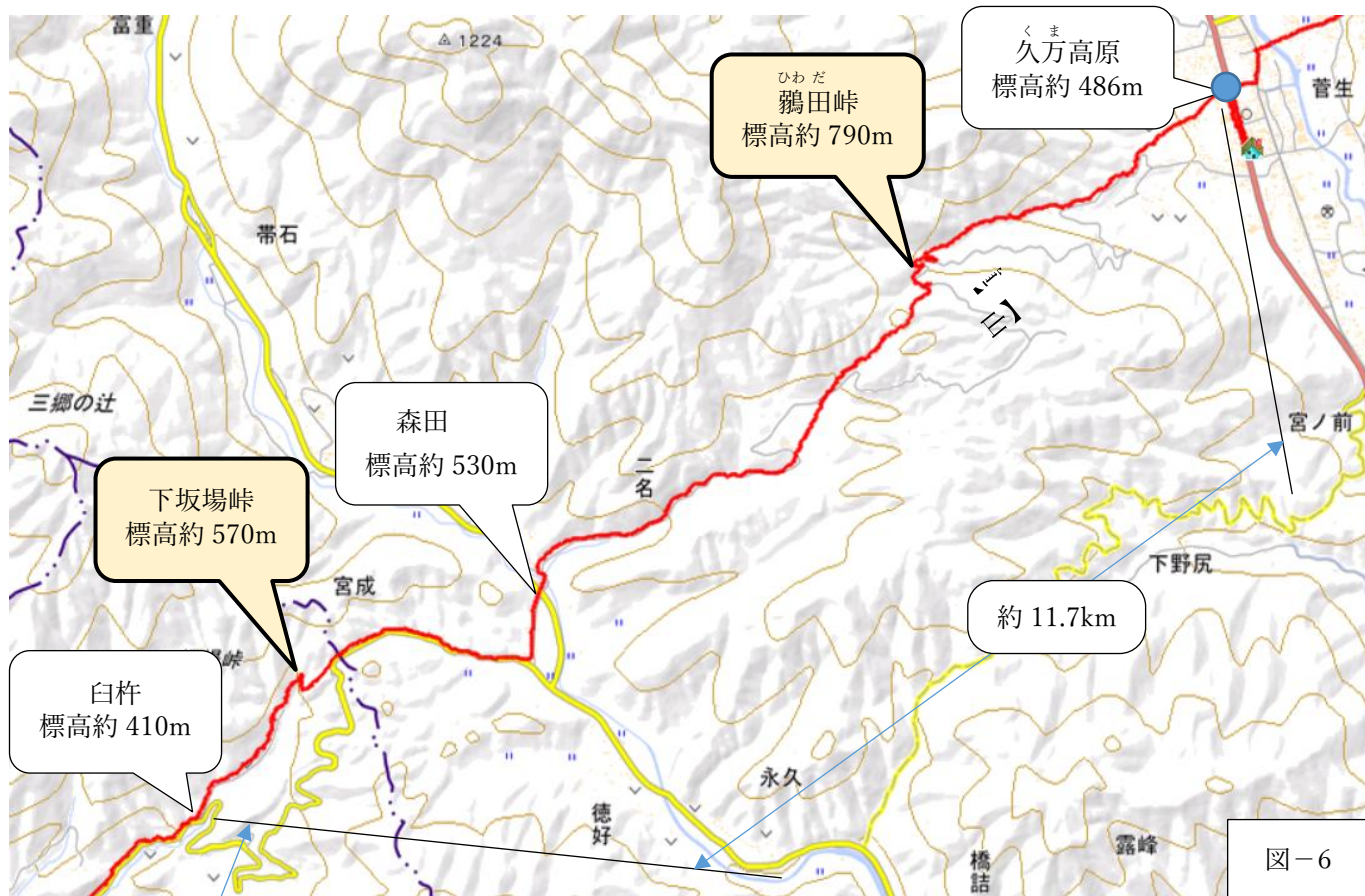
b. 27 番神峯寺の遍路道 (図-4) は、片道 4 km 弱 (3 km 程度は舗装道路) ではあるが、海岸から一気に標高を 400m 超上げることから急こう配である。

(3) 伊予は愛媛県内

a. 柏坂越え (図-5)

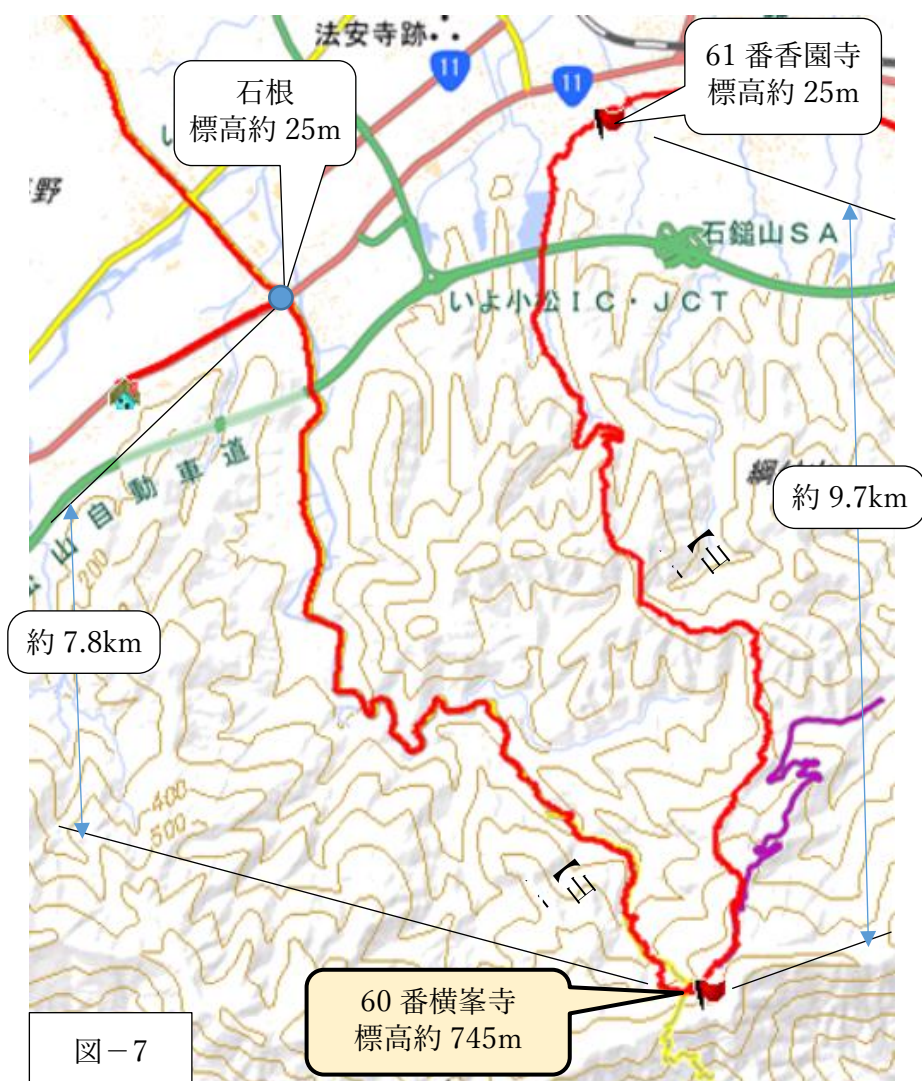


図-5



b. 下坂場峠～鶺鴒峠
(図-6)

c. 60 番横峯寺上り下り
(図-7)



(4) 伊予は愛媛県と阿波は徳島県と讃岐は香川県に跨^{またが}る

○ 65 番三角寺～雲辺寺越え (図-8)



図-8

(5) 讃岐は香川県内

○ 前山へんろ交流センターから 88 番大窪寺 (図-9)

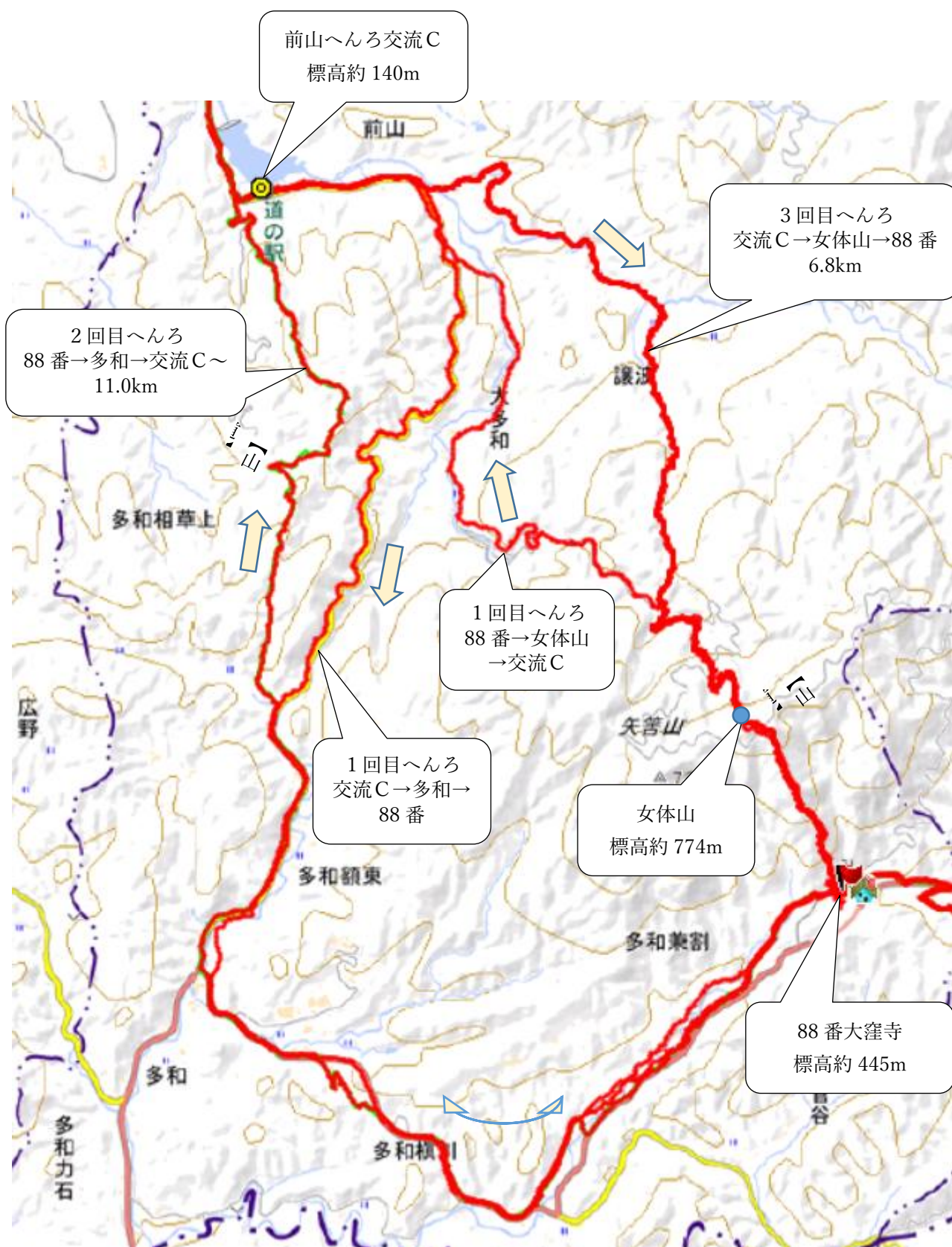


图-9

2. 三大長丁場

二つ（前後）の札所（寺院）間が 70km 超の所が 3 箇所（区間）ある。1 区間当り 2.5 日間～3 日間を要するが、納経が無い区間——御朱印を貰う当てが無いのに 2 泊もするのは無駄と思えるのもやむを得ない面もある。

（1）23 番薬王寺～24 番金剛福寺；約 75.4 km （図－10）

よって、最初の 23 番薬王寺と室戸岬 24 番最御崎寺の取り組みが問われる、その意志如何により、「歩きへんろ人」からバス等公共交通機関利用のミックス派になる——いわゆる『転落、落伍』、おっと失礼！——一人が半数はいるのではないか？



(2) 37 番岩本寺～38 番金剛福寺；80.7km (図－11)

この札所間が最長である。



図－11

(3) 43 番明石寺～44 番大宝寺；約 70.0km (図-12)



図-12

三大長丁場の全体位置は、
図-13 のとおりである。

一つ(区間)の遍路道は数 km 程度
の単距離ではありません、10km 前後
からそれ以上に山道が続くので
す。とにかく素晴らしい！

(end)

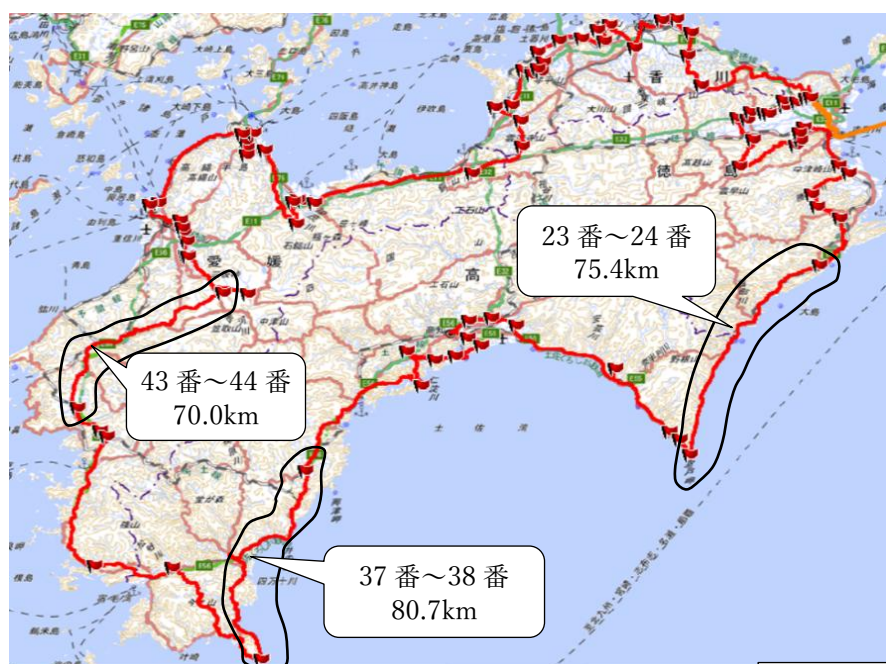
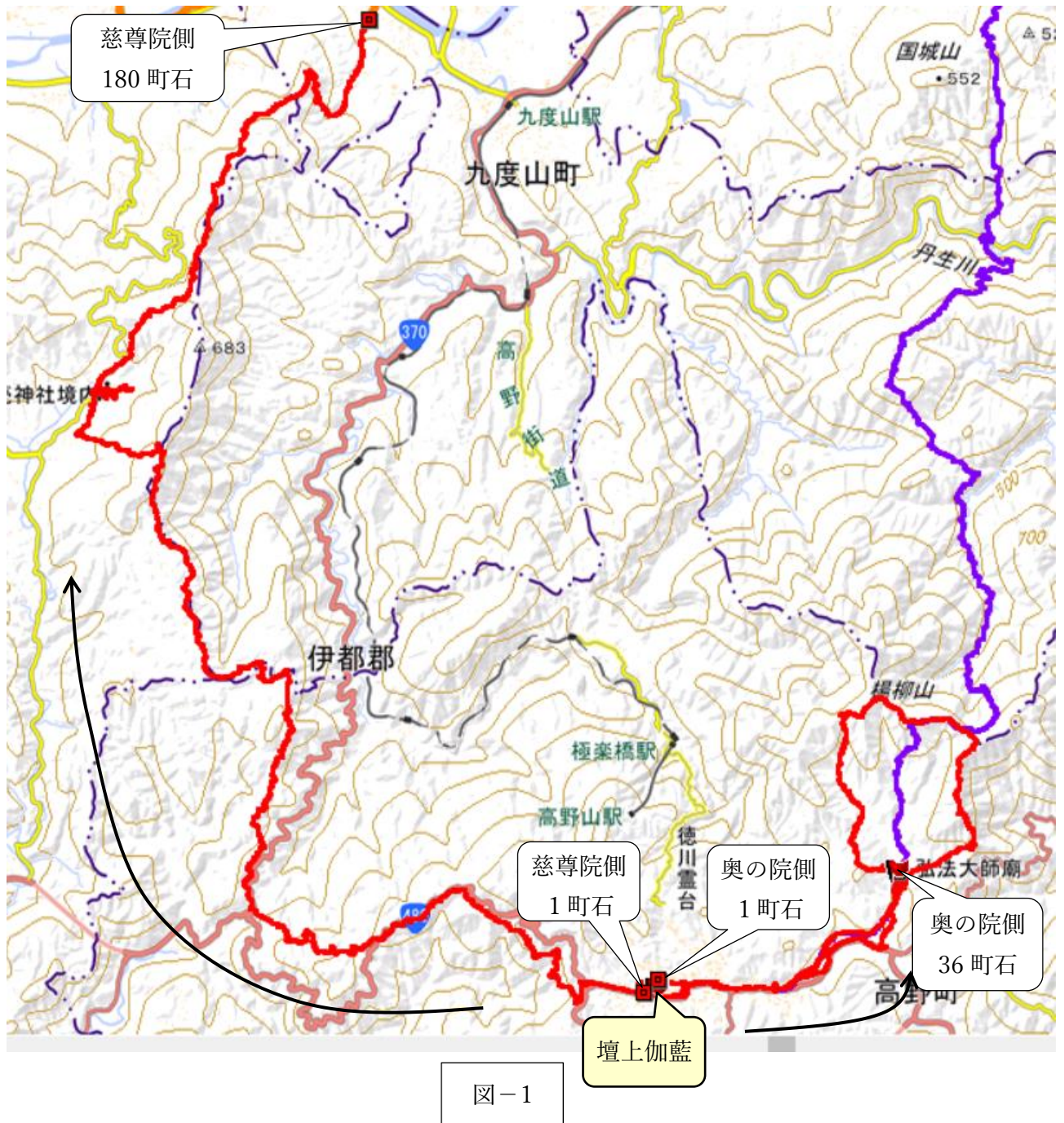


図-13

高野山の「町石^{ちょういし}」とは、縦長方形の石柱に密教の仏尊を示す梵字と、距離を表す町数、そして寄進者の願文を刻んだものをいう。図-1のとおり、壇上伽藍内を基点（0番）——根本大塔なのか、金堂なのか、その中間点なのかは不明？——として、慈尊院側と奥の院側の2方向に、すなわち、左右（東西）両北に全長約23km（うち高野山内4km）に渡って、合計216基建立されている。



図中のくねくねの赤・紫の実線は私が携行・ハイクしたGPS軌跡（トラックログ）ある。大ききの平均は、高さ約3メートル、幅30センチメートル、重量約750kgと謂われている。

1. 壇上伽藍内の町石

図-2は、壇上伽藍内にある慈尊院側の『1町石』と、奥の院側の『1町石』の状況である。



図-2

2. 慈尊院近くの町石

図-3は『町石道』慈尊院側の最終『180町石』の状況である。



図-3

3. 奥の院内の町石

図-4は、町石道の奥の院側最終一つ手前の『35 町石』（燈籠堂前）の状況である。正面の建物は燈籠堂である。なお、通常はこの付近の撮影は禁止（ごめんなさい！）である。

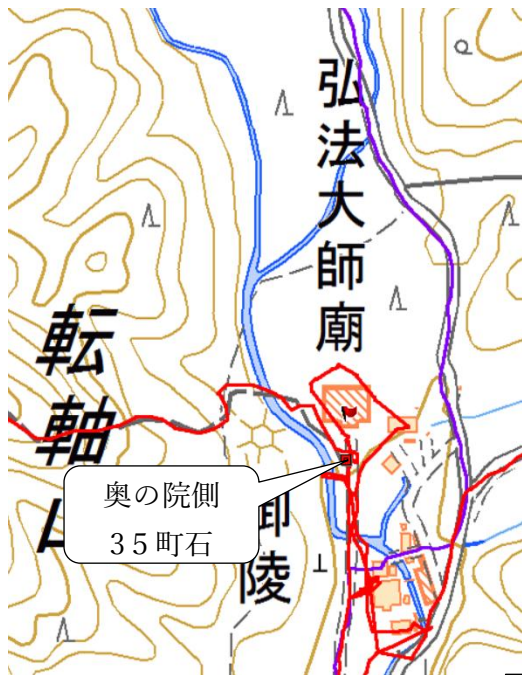


図-4



図-5

最終の『36 町石』は図-5のとおりであって、大師御廟の内部にあり、見付けかねている。

4. 途中「町石道」沿い町石（図－6）



町石道の途中、標高 469m 地点
『慈尊院側 149 町石』



金剛峰寺手前、鐘の下
『奥の院側 4 町石』

図－6

<参考>四国へんろ道における丁石の一例



(end)

【Henro Total-report No09】 二大霊場（四国 & 西国^{さいごく}）一覧

1. 四国霊場 本札八十八所の一覧

札番	寺号	読み	所在地
1	霊山寺	りょうぜんじ	徳島県鳴門市
2	極楽寺	ごくらくじ	徳島県鳴門市
3	金泉寺	こんせんじ	徳島県板野郡板野町
4	大日寺	だいにちじ	徳島県板野郡板野町
5	地藏寺	じぞうじ	徳島県板野郡板野町
6	安楽寺	あんらくじ	徳島県板野郡上板町
7	十楽寺	じゅうらくじ	徳島県阿波市
8	熊谷寺	くまたにじ	徳島県阿波市
9	法輪寺	ほうりんじ	徳島県阿波市
10	切幡寺	きりはたじ	徳島県阿波市
11	藤井寺	ふじいでら	徳島県吉野川市
12	焼山寺	しょうざんじ	徳島県名西郡神山町
13	大日寺	だいにちじ	徳島県徳島市
14	常楽寺	じょうらくじ	徳島県徳島市
15	国分寺	こくぶんじ	徳島県徳島市
16	観音寺	かんおんじ	徳島県徳島市
17	井戸寺	いどじ	徳島県徳島市
18	恩山寺	おんざんじ	徳島県小松島市
19	立江寺	たつえじ	徳島県小松島市
20	鶴林寺	かくりんじ	徳島県勝浦郡勝浦町
21	太龍寺	たいりゅうじ	徳島県阿南市
22	平等寺	びょうどうじ	徳島県阿南市
23	薬王寺	やくおうじ	徳島県海部郡美波町
24	最御崎寺	ほつみさきじ	高知県室戸市
25	津照寺	しんしょうじ	高知県室戸市
26	金剛頂寺	こんごうちょうじ	高知県室戸市
27	神峰寺	こうのみねじ	高知県安芸郡安田町
28	大日寺	だいにちじ	高知県香南市

29	国分寺	こくぶんじ	高知県南国市
30	善楽寺	ぜんらくじ	高知県高知市
31	竹林寺	ちくりんじ	高知県高知市
32	禅師峰寺	ぜんじぶじ	高知県南国市
33	雪蹊寺	せっけいじ	高知県高知市
34	種間寺	たねまじ	高知県高知市
35	清滝寺	きよたきじ	高知県土佐市
36	青龍寺	しょうりゅうじ	高知県土佐市
37	岩本寺	いわもとじ	高知県高岡郡四万十町
38	金剛福寺	こんごうふくじ	高知県土佐清水市
39	延光寺	えんこうじ	高知県宿毛市
40	自在寺	かんじざいじ	愛媛県南宇和郡愛南町
41	竜光寺	りゅうこうじ	愛媛県宇和島市
42	佛木寺	ぶつもくじ	愛媛県宇和島市
43	明石寺	めいせきじ	愛媛県西予市
44	大寶寺	だいほうじ	愛媛県上浮穴郡久万高原町
45	岩屋寺	いわやじ	愛媛県上浮穴郡久万高原町
46	浄瑠璃寺	じょうるりじ	愛媛県松山市
47	八坂寺	やさかじ	愛媛県松山市
48	西林寺	さいりんじ	愛媛県松山市
49	浄土寺	じょうどじ	愛媛県松山市
50	繁多寺	はんたじ	愛媛県松山市
51	石手寺	いしてじ	愛媛県松山市
52	太山寺	たいざんじ	愛媛県松山市
53	円明寺	えんみょうじ	愛媛県松山市
54	延命寺	えんめいじ	愛媛県今治市
55	南光坊	なんこうぼう	愛媛県今治市
56	泰山寺	たいさんじ	愛媛県今治市
57	栄福寺	えいふくじ	愛媛県今治市
58	仙遊寺	せんゆうじ	愛媛県今治市
59	国分寺	こくぶんじ	愛媛県今治市
60	横峰寺	よこみねじ	愛媛県西条市
61	香園寺	こうおんじ	愛媛県西条市

62	宝寿寺	ほうじゅじ	愛媛県西条市
63	吉祥寺	きちじょうじ	愛媛県西条市
64	前神寺	まえがみじ	愛媛県西条市
65	三角寺	さんかくじ	愛媛県四国中央市
66	雲辺寺	うんぺんじ	徳島県三好市
67	大興寺	だいこうじ	香川県三豊市
68	神恵院	じんねいん	香川県観音寺市
69	観音寺	かんのんじ	香川県観音寺市
70	本山寺	もとやまじ	香川県三豊市
71	弥谷寺	いやだにじ	香川県三豊市
72	曼荼羅寺	まんだらじ	香川県善通寺市
73	出釈迦寺	しゅっしゃかじ	香川県善通寺市
74	甲山寺	こうやまじ	香川県善通寺市
75	善通寺	ぜんつうじ	香川県善通寺市
76	金倉寺	こんぞうじ	香川県善通寺市
77	道隆寺	どうりゅうじ	香川県仲多度郡多度津町
78	郷照寺	ごうしょうじ	香川県綾歌郡宇多津町
79	天皇寺（高照院）	てんのうじ（こうしょういん）	香川県坂出市
80	国分寺	こくぶんじ	香川県高松市
81	白峯寺	しろみねじ	香川県坂出市
82	根香寺	ねごろじ	香川県高松市
83	一宮寺	いちのみやじ	香川県高松市
84	屋島寺	やしまじ	香川県高松市
85	八栗寺	やくりじ	香川県高松市
86	志度寺	しどじ	香川県さぬき市
87	長尾寺	ながおじ	香川県さぬき市
88	大窪寺	おおくぼじ	香川県さぬき市

2. 四国霊場 別格札所 20 所の一覧

札番	寺号	読み	所在地
01	大山寺	たいさんじ	徳島県板野郡上板町
02	童学寺	どうがくじ	徳島県名西郡石井町
03	慈眼寺	じげんじ	徳島県勝浦郡上勝町
04	鯖大師本坊	さばだいしほんぼう	徳島県海部郡海陽町
05	大善寺	だいぜんじ	高知県須崎市
06	龍光院	りゅうこういん	愛媛県宇和島市
07	出石寺	しゅっせきじ	愛媛県大洲市
08	十夜ヶ橋永徳寺	とよがはしえいとくじ	愛媛県大洲市
09	文殊院	もんじゅいん	愛媛県松山市
10	西山興隆寺	にしやまこうりゅうじ	愛媛県西条市
11	生木地藏	いききじぞう	愛媛県西条市
12	延命寺	えんめいじ	愛媛県四国中央市
13	仙龍寺	せんりゅうじ	愛媛県四国中央市
14	椿堂	つばきどう	愛媛県四国中央市
15	箸蔵寺	はしくらじ	徳島県三好市池田町
16	萩原寺	はぎわらじ	香川県観音寺市
17	神野寺	かんのじ	香川県仲多度郡まんのう町
18	海岸寺	かいがんじ	香川県仲多度郡多度津町
19	香西寺	こうざいじ	香川県高松市
20	大瀧寺	おおたきじ	徳島県美馬市

3. 西国三十三所観音霊場の一覧

札番	寺号	読み	所在地
01	那智山 青岸渡寺	せいがんとじ	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町
02	紀三井山 金剛宝寺	こんごうほうじ	和歌山県和歌山市
03	風猛山 粉河寺	こかわでら	和歌山県紀の川市
04	槇尾山 施福寺	せふくじ	大阪府和泉市
05	紫雲山 葛井寺	ふじいでら	大阪府藤井寺市
06	壺阪山 南法華寺	みなみほっけじ	奈良県高市郡高取町
07	東光山 岡寺（龍蓋寺）	おかでら	奈良県高市郡明日香村
番外	豊山 法起院	ほうきいん	奈良県桜井市
08	豊山 長谷寺	はせでら	奈良県桜井市
09	興福寺 南円堂	なんえんどう	奈良県奈良市
10	明星山 三室戸寺	みむろとじ	京都府宇治市
11	深雪山 上醍醐准胝堂	かみだいごじゅんてん どう	京都府京都市伏見区
12	岩間山 正法寺	しょうほうじ	滋賀県大津市
13	石光山 石山寺	いしやまでら	滋賀県大津市
14	長等山 三井寺（園城寺）	みいでら	滋賀県大津市
番外	華頂山 元慶寺	がんけいじ	京都府京都市山科区
15	新那智山 今熊観音寺	いまくまかんのんじ	京都府京都市東山区
16	音羽山 清水寺	きよみずでら	京都府京都市東山区
17	補陀洛山 六波羅蜜寺	ろくはらみつじ	京都府京都市東山区
18	紫雲山 六角堂（頂法寺）	ろっかくどう	京都府京都市中京区
19	霊麁山 革堂（行願寺）	こうどう	京都府京都市中京区
20	西山 善峯寺	よしみねでら	京都府京都市西京区
21	菩提山 穴太寺	あなおうじ	京都府亀岡市
22	補陀洛山 総持寺	そうじじ	大阪府茨木市
23	応頂山 勝尾寺	かつおじ	大阪府箕面市
24	紫雲山 中山寺	なかやまでら	兵庫県宝塚市
番外	東光山 花山院菩提寺	かざいんぼだいじ	兵庫県三田市
25	御嶽山 播州清水寺	ばんしゅうきよみずで ら	兵庫県加東市
26	法華山 一乗寺	いちじょうじ	兵庫県加西市
27	書寫山 圓教寺	えんぎょうじ	兵庫県姫路市
28	成相山 成相寺	なりあいじ	京都府宮津市
29	青葉山 松尾寺	まつおでら	京都府舞鶴市
30	厳金山 宝厳寺	ほうごんじ	滋賀県東浅井郡びわ町
31	姨綺耶山 長命寺	ちょうめいじ	滋賀県近江八幡市
32	繖山 観音正寺	かんのんしょうじ	滋賀県蒲生郡安土町
33	谷汲山 華厳寺	けごんじ	岐阜県揖斐郡揖斐川町

(end)

以下は、令和2年1月9日（水）山形県を訪問し、私の経験を踏まえて作成した書面を持ち、説明・提案して来た文書をそのまま再掲（コピー）したものであります。

「歴史的文化財へ誘う方策についての一考察（意見・提案）」

〔はじめに〕

私は、歴史全般に関心を抱きつつ、各地の歴史文化財・遺産・史跡を求めて「旧街道・古道」歩きをやっています。「旧街道・古道」歩きの山形県に係る大きな組織では、六十里越街道広域連携フォーラム、越後米沢街道・十三峠交流会、羽州街道交流会などがあり、開催場所の持ち回りで定期的に一堂に会した交流会を行っています。私はこれらの会の主催するイベントにも何回か参加し、現地のコースも歩いています。また、近年、四国八十八か寺霊場の歩きへんろ3回、西国三十三か寺観音霊場の歩きへんろを1回体験しました。

こんな折に、吉村知事が山形県内出羽百観音霊場の整備支援（図-1参照）に触れられました。ついては、安価で効果的な整備の在り方について、提案の意図を含め整理して見ました。

現地に赴く手段は——純粋な歩き、自転車・バイク利用、マイカー利用、バスツアー、お友達タクシー利用、公共交通機関ミックスなど一長一短はありますが、ここでは車の移動に係るものではなく、特にトレッキング対応（歩いて標的に行くこと）に着目してみます。

以下の考え方は、歴史的文化財へのアクセスのみならず、行政が管理に係る多くの登山道の整備に共通する内容であります。



図-1

I 地図（マップ）について

1. 使いものにならない地元のマップ

私の居住エリア滝山地区には図-2のとおり「滝山歴史マップ」があります。また、図-3はほぼ同様のもので山形市作成のマップがあります。時々、これを片手に掲載されている個所を求めて訪ね歩いています。

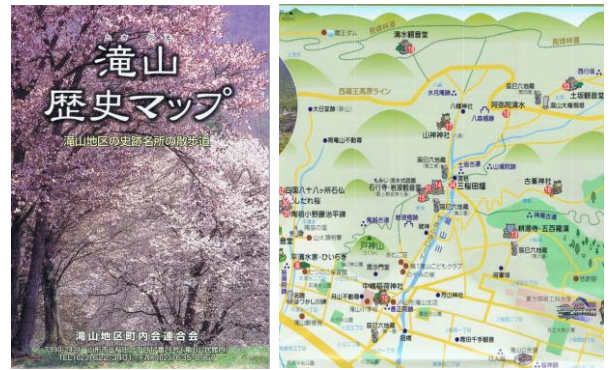


図-2

しかし、初めて、目的地（目標点、標的）へ行こうとしてもピンポイントの所にはなかなか行けません。

なぜならば、同マップの道は、実際の現地の道筋（コース、ルート）とは一致していません、一致させるのが困難ということです。デフォルメ化したイラストだからです、眺める分には目を楽しませるが、地理不案内の人は、同マップ上の史跡ポイントへ容易に行

く事はほぼ不可能です。

初めての人でも、しばらくぶりの人でも、標的の史跡ポイントにスムーズに足を運んで貰うためには、客観的な地形図、つまり、国土地理院の地形図に乗せた経路（道線・ルート・コース）が必要です。

地元内外の人がすんなり行けないようでは、作成した地元の一部関係者の自己満足、宝の持ち腐れ、税金の無駄遣いで終わってしまいます。

マップを作製する場合は、史跡へ誘導するためのマップなのか、概要をイメージして貰えればよいとするのか、目的や作成意図を明確に区分すべきなのです。

2. マップの好事例

図-4は、「西国三十三所道中案内地図」（ナカニシ出版／森沢義信著／冊子）から拝借した一部です。同冊子に記載のルート図は、国土地理院の2万5千分の1地形図に赤色実線で記入しています。同図は伊勢神宮の



図-4

内宮宇治橋をスタート地点として、西国三十三個所観音霊場巡りへと繋がるルート全部を記載しています。この書籍を参考にすれば、まったく初めて現地入りしても、ほぼ間違いなく忠実に「旧街道・古道」ルートを辿って標的へ歩くことが出来ます。なお、私は2019(H31-R元)年4月～5月、48連泊49日間で全ルート歩きへんろを実施しています。

後記図－8に四国遍路ルートの事例も記載しています。

3. 国土地理院の地形図に乗せたルート整備の理由

現場・現地では、対象とする古道ルートは、他の公道、生活道、私道、作業道、林道、農道、獣道などと沢山交差・交錯しております。道幅も整備状態も方角も様々なのです。そんな中で「見た目美しさ」を訴求したイラストマップでは、現地の交差個所において行くべき道の判断に迷い、困惑に至るだけです。やがては間違った道に入り込んで、遭難騒ぎになりかねないのです。

国土地理院の地形図にさえも表せない道があり、確かに万能ではありません、しかし、等高線表示や建造物・種々の目標物が記号化されており、周囲の地形環境を読めるのです。したがって、道の選択においては判断が容易なので、遥かに安全性は高まります。

もしも、図－2・3を根拠にした人の道迷いの遭難騒ぎがあれば、時には制作側の瑕疵・善管注意義務が問われかねないことになります。

ところが、図－4を示したのにも関わらず、道迷いの遭難騒ぎがあれば、客観的・普遍的に見て、同図が不備なのではなく、この地形図を読み切れない人の能力の問題となります。

4. まとめ

繰り返すが、観光・地域興しの観点に立ち、誘客・集客のねらいを以ってマップを作る、あるいは、是非訪れて触れて欲しい、自身の目で確かめて欲しいとの願いを込めてマップを作成するのであれば、国土地理院の地形図に記載するのが、必要・必須条件ということです。

イラストマップは、部屋の中で眺める素材としては良いのかもしれないが、携帯して現地で活用するということになれば、価値ゼロの無用の長物化してしまいます。

II 案内標識（道標）の設置について

1. 設置費用の抑制

前述のように例え国土地理院地形図でも万能では有りません、また、紙の携行は雨天時では使い物になりません。そこで、現地には案内標識、案内表示、いわゆる道標があれば、安全度が増すということになります。道路の分岐には何らかの「道標」が欲しいということになります。そこで問題になるのが設置費用です。私から見れば簡単な道標で良く、その事例を紹介します。

図－5は「塩の道」（新潟県糸魚川→静岡県御前崎）に設置されていたとても立派なものです。確かに長持ちはするだろうが、仕上がり設置費用は相当高額でしょう。

何かの道（歴史の道）を整備しようとするれば、必要数は一つや二つではありません、設置数が多くなります。高額な設置費用だけで整備への意欲が削がれて躊躇してしまいます。しかし、私ははっきり言ってこんなものは一切要求しません、必要ありません。



図－5

2. 安価かつ迅速対応可能な好事例

そこで、推奨したい標識の事例を図－6に紹介します。物（板）の材質は腐食に強いセルロイド板のようであります。ワイヤー縛りや糊（接着剤）付けをしています。何よりも一番の特徴は、分岐点において、道筋とその方向を赤いビニールテープでその場の分岐方向に即して適切に表示していたものです。矢先の切り抜き用として型でも作っているのでしょうか。



図－6

このような手法であれば、予め、室内で、事務室で方向付けを決めなくてもいいのです、現地の分岐の方向に即して柔軟に対応出来ます。例えば、道路改良などで消失しても、現地の保存会などの関係者、あるいは管理者が直営で速やかに設置出来ます。一々、見積もりや発注の作業や業務は必要ありません。

3. まとめ

案内標識（道標）の設置とは、安全誘導の方策が目的であって、見栄えを競う必要はありません。現在の技術の進歩を以てすれば、丈夫で長持ちする材質の物、安価かつ確実な取り付け手法が見つかるはずです。

Ⅲ 山形県出羽百観音霊場の整備に関するヒント

1. 四国の取り組みの好事例

日本には観音霊場は沢山ありますが、私が歩きへんろで実体験——2015(H27)年に第1回目、2017(H29)年に第2回目、2018(H30)年に第3回目——した四国八十八か寺霊場の取り組みを紹介します。

「(一社) へんろみち保存協力会」(2017年・平成29年に一般社団法人化) 編纂発行(販売)の書籍についてです。参拝の移動手段・方法はどうであれ、計画・実践に必携な冊子(ガイドブック／図-7)となっています。

その1；解説編

遍路を計画する時のお役立ち情報が掲載されています。目次を拾うと、巡拝プランの立て方、へんろ用品と取扱上の留意点、装備品と携行品などについて分かりやすく解説されています。歩き遍路で一番悩まされる足豆対策についてもきちんと載っています。

その2；地図編



図-7

次頁図-8を参照のこと、国土地理院地形図に準拠した地図上にお寺を繋ぐ遍路道のルートが赤色——車道は実線、山道の古道は点線——で記述されています。

ただ、残念なのは東西南北表示があべこべ、つまり、紙面の上が北とは限らないのです。これが使い難い、無いよりましなので使って来たが。

次頁図-9を参照のこと、宿の情報が一覧整理され——地図上の宿と検索番号を一致、前後のお寺までの距離、名称、電話番号、住所——記載されていることが最大の特徴です。

さらに、地図には、「(一社) 四国八十八ヶ所霊場会」公認の八十八ヶ所寺院のみならず、他の寺院も、神社も掲載されています。人の価値観は百人百様、日本人の基層に今も流れる神仏混交参詣の精神を汲み、四国滞在を長くするような仕掛けの一つです。



図－ 8

地図番号	指定番号	A距離	B距離	名 称	電 話 番 号	〒	所 在 地
58-1	46	72.0	—	医王山 浄瑠璃寺	089-963-0279	791-1133	松山市浄瑠璃町282
66-1	60	—	7.9	石鉄山 横峰寺	0897-59-0142	799-1112	西条市小松町石鎚2253
98-1	62	7.9	8.0	石鉄山 極楽寺	0897-59-0011	793-0211	西条市大保木4-36
98-1	1	8.0	0.3	泉 屋	0897-59-0955	793-0215	西条市西之川乙42-2
98-1	2	8.0	0.3	温泉旅館京屋本店	0897-59-0335	793-0215	西条市西之川甲106
98-1	駅	—	—	石鎚登山ロープウェイ山麓下谷駅	0897-59-0331	793-0215	西条市西之川甲下谷81
98-1	64	0.2	0.8	64奥石鉄山 前神寺	0897-59-0354	799-1112	西条市小松町石鎚成就
98-1	3	0.8	4.0	石鎚山日の出屋旅館	0897-59-0143	799-1112	西条市小松町石鎚417
98-1	4	0.8	4.0	石鎚山白石旅館	0897-59-0032	799-1112	西条市小松町石鎚417
98-1	5	0.8	4.0	玉 屋 旅 館	0897-59-0415	799-1112	西条市小松町石鎚417
98-1	6	4.8	—	石鎚神社頂上山荘(5月～11月初旬)	0897-55-4168	793-8555	西条市西田甲797
98-1	7	—	—	関 門 旅 館	0897-59-0607	799-1112	西条市小松町石鎚2-2
96-A	62	4.0	21.3	石鎚神社頂上社		799-1112	西条市小松町石鎚
				(石鎚登山ロープウェイ利用)			
66-2	63	21.3		密教山 吉祥寺	0897-57-8863	793-0072	西条市氷見乙1048
64-1	59		17.3	金光山 国分寺	0898-48-0533	799-1533	今治市国分甲4-1-33
98-2	10	17.3	2.3	西山 興隆寺	0898-68-7275	791-0500	西条市丹原町古田4657
98-2	62	2.3	1.5	梵音山 久妙寺	0898-68-7280	791-0504	西条市丹原町久妙寺193
98-2	11	1.5	3.6	生木地藏正善寺(いきき)	0898-68-4190	791-0503	西条市丹原町今井141-1

図－ 9

その3；現地の案内標識（道標）

図－10のとおりで、様々なものが設置、貼付されています。私的な保存会や愛好会の取り付けなのでしょう。総じて簡素です。前記「塩の道」の例示（図－6）よりもさらに簡素な矢印シール貼付方式のものが半分程度はあったと思います。『赤い矢印』だけで、四国遍路道の案内誘導であるという暗黙知があるのです。（電柱等の構造物設置者の許可の有無云々については、ここでは割愛）

上記地図を携行しなくとも、この表示に頼るだけで目標とする寺院に何とか行けたという人もいました。



図－10

2. 山形県出羽百観音霊場整備への提案（方向性）

前提として、冒頭に記述したとおり「歩く、歩いて貰う」というキーワードです。よって、ホームページの電子マップ（グーグルマップやヤフーマップ）に対象位置を特定しているというだけでの帰結は許容しない考え方です。

2018(H30)年に立ち上げた「やまがた出羽百観音プロジェクト情報発信事業」において目指した周知用チラシの制作やホームページの開設については整備されたようですが、巡礼ガイド制作はどうなったのでしょうか？ 従前のイラスト風では、繰り返すが歩いて貰う視点からは使い物になりません。そして、今度は、現場に目を向けてください。

次頁図－11を参照、整備の視点を従来の「点」（寺とその境内のみ）から「線」（周辺の古道・社寺等）へ、そして「面」（出羽百観音全体）へと願っています。当面は線の整備をと願っています。従来の点の整備はその所期の目的を完了したとしてもいいのではないのでしょうか。

整備の視点を「点」から「線」へ、そして「面」へ

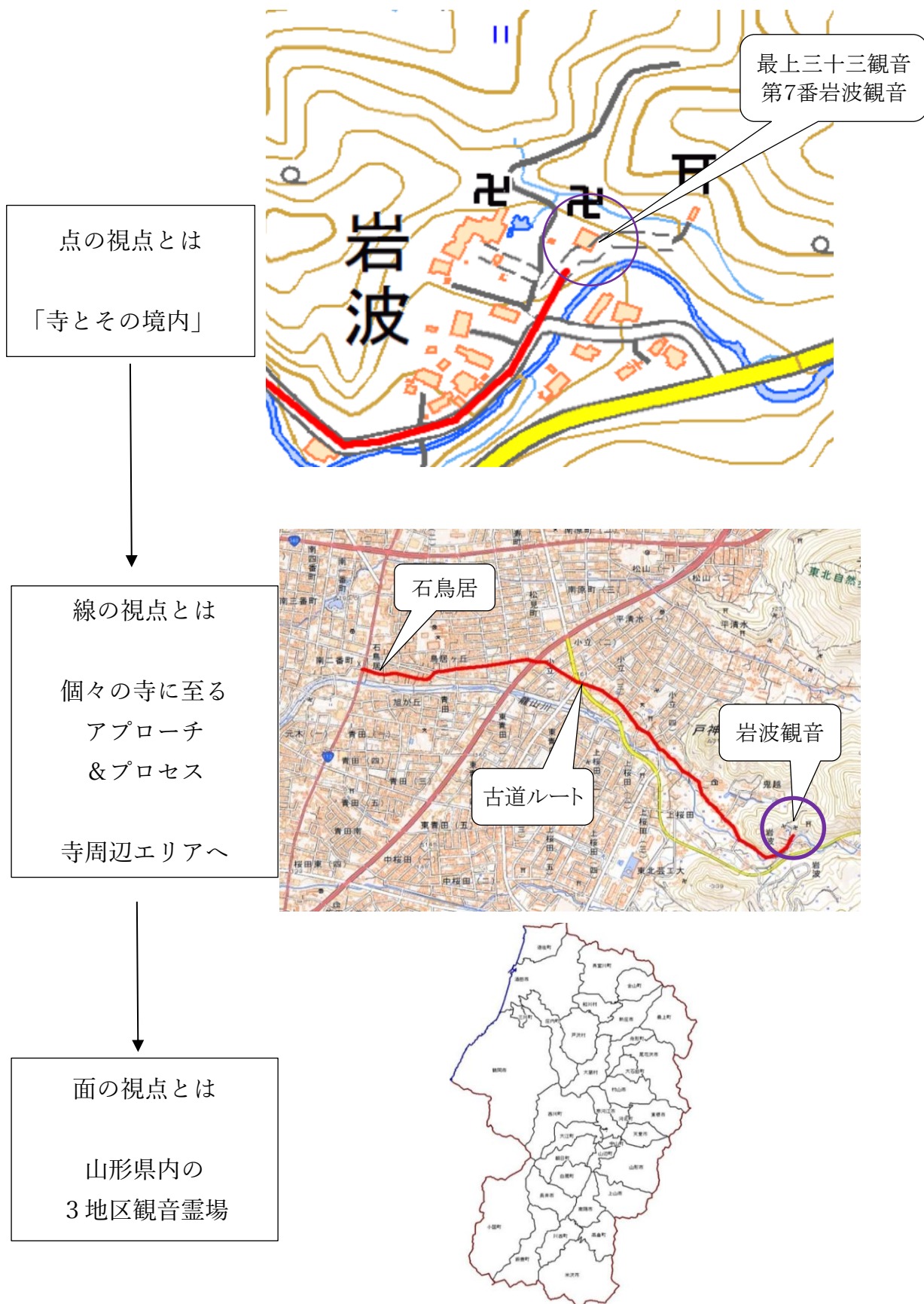


図-11

さて、「歩く」環境の整備に係るメリットは次のとおりです。

当然であるが同じ距離を稼ぐのに動力交通利用よりも時間を要します、時間を要するということは滞在時間が長くなります、滞在時間が長くなるということはその間の飲料・飲食物をより必要とします。必要によっては宿泊を伴うことになります。食料を自宅からある程度は持ち込んだとしても人が動けば、途中あるいは現地で調達する飲料・飲食物が増えお金が投下されます、もちろん宿泊費も投下されます。したがって、観音霊場、つまり、寺院とその境内だけの整備では、その視点はマイカー来場者のみへのアプローチとなります、限界があります。

整備した古道（歩き道）の出入り口基点付近までの移動は、主には公共交通機関やタクシー移動となります。移動経費も投下されます。

そこで、以下、同霊場に係る現地および関連周辺への滞在時間を増加せしめる方策の一端です。

① 古道ルートの特定とマップ化

3 地区内（最上、置賜、庄内）において、望ましくは、霊場寺院全部を繋ぐ古道ルート——そのほとんどは現況の舗装道路と重なっている、舗装道路であっても古道であるという処に意義（価値）がある。——を調査・特定する。

過度的には、寺院に至る最低限 4 km 圏内の古道ルートを確定し、歩ける程度に下刈りなどの整備を図る。付帯して国土地理院地形図に同ルートを記載したマップを作製する。その場合、ルート周辺の他の寺院や神社も掲載する。

古道ルートの確定に当たっては、教育委員会（『歴史の道調査報告書』作成の実績がある。）や地元関係者や寺院の協力を得て探査することとし、完璧なものからではなく、暫定ルートからスタートすればよく、年々精度を上げて行けばよい。

② 宿泊施設の一覧化

3 地区内の古道ルート沿いの宿泊施設の一覧表を作成する。これも上記マップの考え方同様に寺院の周囲 4 km 圏内の古道ルート沿いの宿泊施設からスタートする。

③ 簡素な案内標識（道標）の設置

3 地区内の古道ルート沿いの現地に簡素な案内標識（道標）を設置する。これも上記同様の考え方で寺院の周囲 4 km 圏内の古道ルートへの設置からスタートする。なお、前記図－6 や図－10 で紹介したようなコストパフォーマンスの高い簡素なものとする。

・・

【 おわりに 】

以上 3 点（①～③）について、統一的、体系的に整備することが大事・肝要です。それらを紙ベースの冊子にするのが望ましいが、過度的には関連ホームページに掲載（pdf ファイル）し、個人による印刷を薦めることもやむを得ないと思います。

また、修正個所が生じた場合は、その都度、専用ホームページに更新掲載すれば良いことです。

出羽百観音霊場には、歩いてお参りしたいという希望を持つ人達が大勢いると思います、これからの超高齢社会ではそのような希望者が確実に増えます。なぜならば、日本人吾が大和民族は、還暦を過ぎると自然と神仏に接近したくなる、神仏を分け隔てなく受け入れるという習性を持っています。合わせて近年の健康志向からも少しでも歩いて接近したいという要望があります。そこにこそ霊場参拝の有り難さ、達成感を感じることが出来ます。人間は、標的すなわちピンポイント・ターゲット直行では満足しません、そこに至るプロセスに価値観があつてこそその満足感、達成感、充実感というものです。

繰り返しますが、以上のような考え方は、歴史的文化財へのアクセスのみならず、行政が管理に係る多くの登山道———国立公園、国定公園、県立公園などの実質自治体が管理に係る山道等の整備に共通する内容であります。

ところで、このような整備について知事が表明したことから、高価なものを売り込んで一儲けしようと悪徳業者が暗躍する可能性がありますのでよくよく留意（注意）する必要があります。

古道ルートの調査については、出羽百観音寺院の所在地の長老有志や当該寺院に問い質せば、直ぐに答えが出るはずです。高額な報酬を支払う学者肌の識者を集める必要はありません。

繰り返しますが、整備という名の下に「寺とその境内」のみの整備にお金を投入するのでは無く、限られた予算枠内での当座の費用対効果、あるいは中長期の投資対効果に鑑みて、とりわけ古道ルートの整備に注力し、吉村知事表明のと通りの精神文化の向上に寄与・貢献を図って欲しいと願い期待しております。

=====

以上までが、山形県に提出した文書の写しであります。

(end)

以上の山形県に提出した文書を踏まえて次への発展的提案です。

その1；

本書冒頭に記述したとおり、私は先般令和2年1月9日(水)、「歴史的文化財へ誘う方策についての一考察（意見・提案のメモ）」なる件名の提案書を持参し、山形県（観光誘客対策関係）に訪問し説明して来ました。改善されないままそれから1年半が経過し、図-12の山形県広報誌2021年7月号に同様の記事が掲載されました。私の提案がそのまま通るとはもちろん思っていないが、何一つ実行していない！ 同図に「世界中から注目される」と豪語しているが、世界中は何も注目して^Nおりませⁿん、“四国遍路レベルの取り組みなくしてほごくな、独りよがりの嘘つき！”と罵倒したい。実践・実証を伴わない知識偏重の観念論に終始していないのか、担当者は数年以内の短期間で人事異動交代するだろうが、『 四国に言って見ましたか？ もちろん私^{わたくしごと}事で、自費ですよ！ 』

特集

世界に誇る山形の「精神文化」を生かして ～やまがた出羽百観音による観光交流の促進～

こうたくじ
羽黒山最古の寺院とされる庄内三十三観音首番「羽黒山荒澤寺」

「精神文化」とは？

本県の特徴ある文化の一つが精神文化です。精神文化とは、「自然を尊び、自然に感謝する心が生み出した文化」を指し、出羽三山信仰、草木塔、最上・庄内・置賜の各三十三観音などが挙げられます。

その中でも本県の精神文化を代表する出羽三山は、今も続く山岳信仰に根付いた特有の伝統文化として国内外から高く評価されており、**出羽三山「生まれかわりの旅」**は日本遺産として認定されています。

今、注目される精神文化

現代を生きる人々が抱える「心の疲れ」や度重なる災害、コロナ禍等による不安感が広がる社会状況下で、心の安らぎや癒しを与えてくれる精神文化の価値が見直されてきています。これまで大切に受け継がれてきた精神文化は、本県が誇る魅力的な地域資源であり、世界中から注目される大きな強みなのです。



精神文化を生かした観光交流の促進

県では、この精神文化を活用した観光振興に取り組むことで地域や経済の活性化、交流人口の拡大を目指すとともに、精神文化の継承・発展につなげていきたいと考えています。

特に昨年度から取り組み始めたテーマが**やまがた出羽百観音**です。**やまがた出羽百観音**は、本県に古くから深く根付く観音信仰に由来する最上・庄内・置賜の各三十三観音の総称であり、県内外から巡礼者が訪れるその魅力を高め、特徴を生かし県内周遊に結びつけていきます。

やまがた出羽百観音の現状と課題

近年、高齢化や団体巡礼の衰退により、巡礼者数自体は減っています。一方で、県外からの巡礼者は増加し、女性や若年層を中心に、御朱印の収集や精神文化に興味を持つ新たな関心層が訪れています。しかし、お遍路さんで知られる四国八十八箇所などの全国区の巡礼地に比べると、まだまだ知名度が低いのが現状です。県は、認知度向上に向けた情報発信を進めており、今回の特集では、県民の皆さんに**やまがた出羽百観音**の魅力をお伝えします。



県民のあゆみ 7月号 4

図-12

そんな内容構成に当って、一応はチェックしたであろう中間管理者も公務員に非ず^{あら}です。

その2；

よく聞かれる「古絵図」の観光客誘致の視点からの利活用についてです、前記の内容と少し重複するかもしれないが、具体的事例を以って提案視点からの記述です。

出羽三山のおひざ元「いでは文化記念館」などで販売し、書籍にも古絵図が載っています。

図-13は、出羽三山羽黒山絵図（文政¹3⁸3⁰年）です。類似の古絵図が3種類あるそうです、鶴岡市羽黒町手向地区にある「いでは文化記念館」において、同図とは少し違う「湯殿月山羽黒三山一枚絵図」を販売しています。販売だけで終わるようでは、観光客を呼び込む強いファクターには成り得ないと思います。そこで、古絵図上にある旧寺社跡（神仏混淆時代の名称と位置が明記）について、今の現地に簡易標柱・立て札を設置して欲しいと提案しています。細部に亘る説明を記述した立派な案内表示板等高額な工事費用を伴うものでなく、旧寺社の名前だけを記したローコストのもので良いのです。例えば、現地には何らかの番号表示だけでもよいのです、後は当該関係ネットサイトに飛んで番号サーチで確認出来るようにすればよいのです、見地にQRコード表示も考えられるが、一時はよいとしても、自然界に放置では経年変化や汚れで早晚正しく読み込まれなくなり不適です。

すると歴史に関心ある人は必ず現地に行って絵図と照合したくなります、

全部に行きたくなります、時間がかかるようになります、滞在時間が長くなります、飲食物の携行に繋がります、宿泊に繋がります、お金が地元^{うつつ}に投下されます。このように連鎖して行きます。

単なる絵図の販売だけに終わっては、このような行動拡散は期待出来ません。集客のための机上

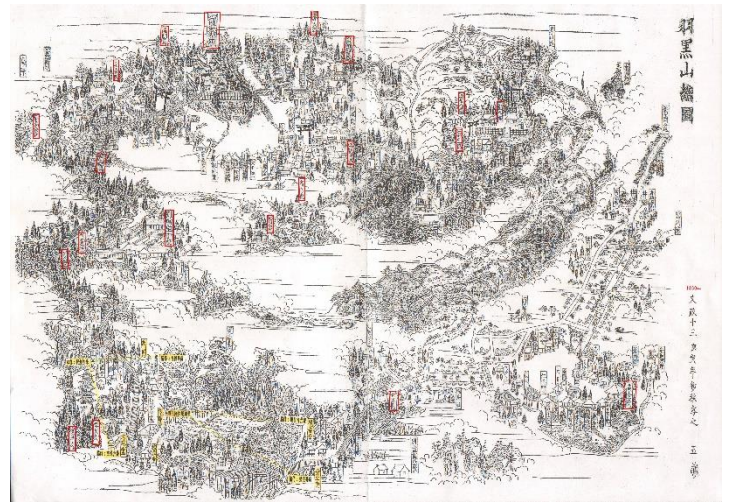
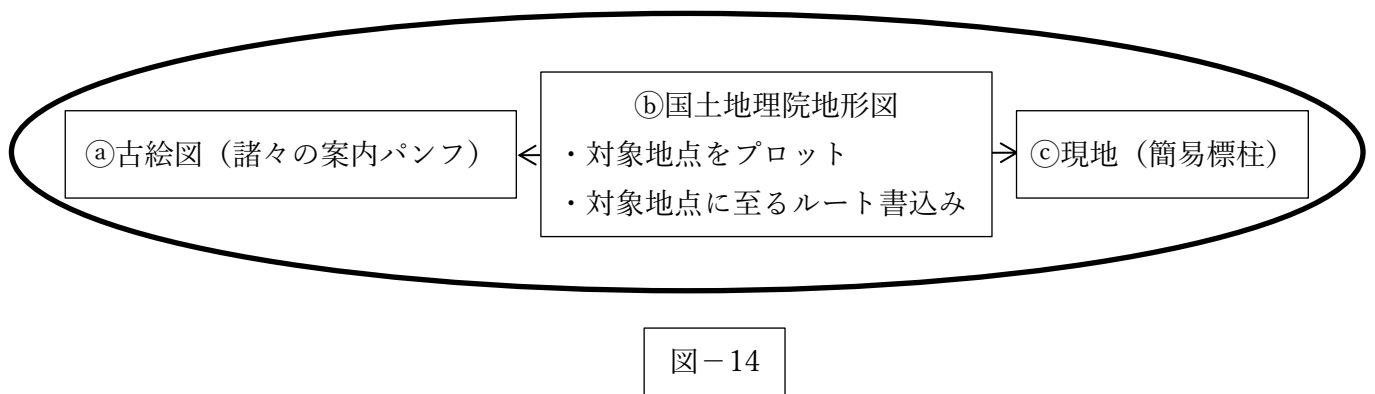


図-13

の空論^{うつつ}に現を抜かすのではなく、人間の素朴な心理・心情に根差した観点、現地と結び付ける手法を検討、そして実践することが肝要です。人間は向上心、好奇心があります、まだ見たこともない所に行きたくなります、いや、過去に行ってもさらに深堀・探求したくなります。常に、情報媒体と現地をリンクする発想が必要です。その時現地に誘導する案内地図についてです。デフォルメ——対象の特徴を誇張、強調して簡略化・省略化した表現方法——した見栄えの良い、いわゆる観光マップでは^{N o n}だめです。国土地理院地形図に対象地点をプロットし、そこに至るルートを書き込むことです。図-14のとおり①②③三本柱をセットする、この3点を統一的・体系的に整備することが肝要です。何らかの管理番号を不定すると思うが、①②③について一致させることです。現地には長々と書いた高額な説明看板は必要ありません、全てHPに記載すればよいのです。例えば、出羽三山神社対応地区については、古絵図と地理院地形図と現地との照合、ならびに標柱の仕様検討と予算確保に1年半年、現地に標柱設置半年の2年間で仕上げられます。



その3；

私はかく思います。41年間長の会社人生、その後の全国（北海道除く）の歩き旅を通しての目線です。

従来型の先入観塗れの「プロダクトアウト」（送り手絶対優位主義、殿様商売）の視点では先が開けません。組織内の人には、組織防衛論に引き摺られて、「プロダクトアウト」の呪縛から逃れられない悪弊があります。組織内において、「プロダクトアウト」の視点から学問的・専門的に議論するのは大いに結構でしょう。しかし、この自分達が造ったネット包囲リングを取り払う、独善囲いを撤去することの自覚・自明なくして発展は絶対に有り得ません。「プロダクトアウト」とは、自分達の作ったもの・こと、あるいは、企画立案・計画したもの・ことは、絶対に間違いはない、下の者よその通りにやれ！といういわゆる上から目線の驕り高ぶりの表現をいいます。上手く当たれば花咲くが、80%の確立で外れます。本当に、心から観光・誘客・集客というのであれば、外部の顧客を相手にするというまったく別のステージに移る必要があります。真の「マーケットイン」（受け手絶対優位主義、お客さまは神様）、カスタマーサティスファクション（顧客満足）の優先視座です。実はこの精神的ハードルはとても高いのですが、広い世の中、柔軟転換、先手必勝、ニッチ起業で商売繁盛している組織・団体・企業・自治体は相当数あることでしょうが。

繰り返すが、顧客に来て欲しい、顧客の心をくすぐるというのであれば、組織内の高度な理論は組織内に留めておけば良く、「人間の素朴な心理・心情に根差した観点」です、これからは、地域観光開発、地方創生に力を入れるというのであれば、心理学を学んだ人を採用すべきであります。大学で経営理論ばかりを極めたという人は、地方の現場では使い物にはなりません。

「デジタル田園都市国家構想」を目指す日本です、観光立国を目指す日本です。行政や観光業界はこぞって集客・誘客のためのあの手この手の作戦を展開しています。そのためにPR動画やPRパンフレットを作成しています、今に始まったことではありません。それらの媒体は見栄えが良く、現地に行ってみたくになります。現地に行ってみました。「それらPR媒体と現地は一致しないではないか、その現地に行くにはどうすれば良いのか？」と期待外れになります、私の経験から沢山ありました。

それらPR媒体の作成目的は、お客様から現地に来て貰ってお金を使って頂きたいというのが端的な意図です。しかし、作成の担当個所は作成することが目的化し、本人達は見栄えの素晴らしいものを作った、独創的だと自慢・自己満足していることがほとんどではないかと想像しています。

例えば福祉関係PR動画・パンフ、あるいは教育用PR動画・パンフは一方的な、プロダクトアウトの垂れ流しでもいいのかもしれませんが、なぜならば、啓発・啓蒙に主眼があるからです。やるかどうか、実践するかどうかはまさに本人の自覚と意識と実行力にかかっています。しかし、誘客・集客という意図からは、現地に来て時間とお金を消費して貰わなければ意味はありません。観光PR動画・パンフは自宅

のパソコンで見て貰えれば、それでよいのですか？

観光誘客施策は、「PR媒体＝現地」の等式が成立する施策、作戦でなければ、観光客が押し寄せる、リピーターが定着するということはないでしょう。とにかく問題は現地のピンポイントに行って貰うことです、動いて貰うことです。ここ一点に集中すべきだと思っています。

(end)

【Henro Total-report No10－3】歴史古道等利活用の整備と誘客提案（3）

歴史街道・歴史古道（登山道・山道）の保全のあり方に対する考察と提案です。

そのような山道を歩きたいと思う人は、決して、林道や舗装道路を欲しません。昔々、往時の人達——お殿様、お姫様、修験者、信者、商人、^{あきんど}庶民などが歩いた山道に入り追体験したいのです。

1. 自然界の山道に危険リスク潜在は当然のこと

私は、2010(平成22)年から2019(令和元)年までの丁度10年間に、歴史街道・歴史古道を対象に、正味14,101 km(31.2km/日)、453日間の歩き旅を行って来ました。その中で行政等の管理者が取り付けた「通行止め」「通行禁止」の表示のある所が何か所もありました。しかし、私は無視して、その全てを歩いて来ました。管理者が危険と判断したと思われる場所のほとんどは「道が崩れている。」この場所を指すのだらうと現地では分りました。しかし、既に道は踏み固められ、あるいは少し巻道が作られて、危険は無くまったく問題はありませんでした。既に様々な人達が立ち入って通過している証拠です。なぜ、「通行止め」「通行禁止」を無視して通過する人が多いのか、そのルートは歴史の道・歴史の古道だからです。迂回案内されている林道や舗装道は人工的なものであり、そんな道を歩くために費用や時間をかけているのではないからです。「通行止め」「通行禁止」されているそんな場所よりもっと危険と思われる状態は沢山ありました。

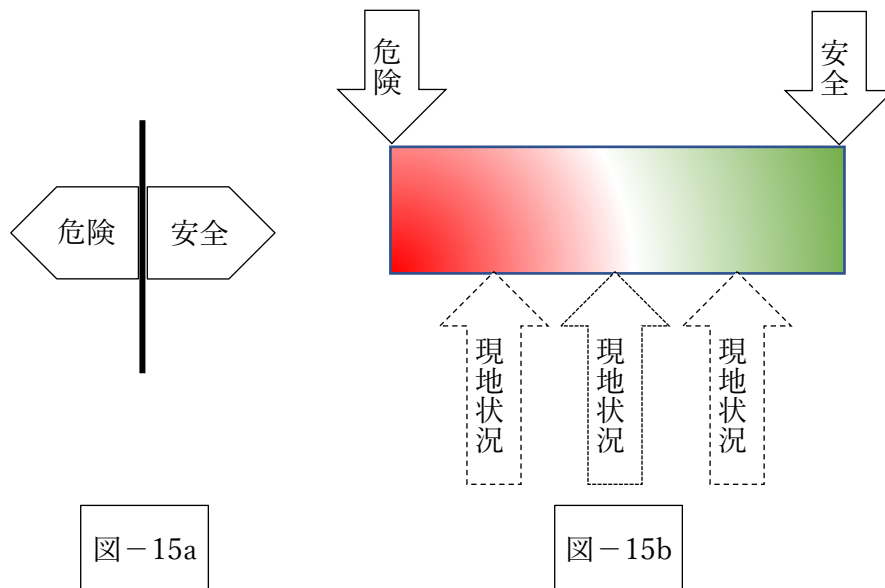
そもそも危険発生リスクには際限は有りません。

- ・風が吹いただけで樹木が揺れて根元の岩石が落下する、枝が落下する。
- ・小さな地震でも大きな落石あり、大きな樹木の折損・倒木があり、小規模な崖崩れがあり得る。
- ・動物の突然の襲来の恐れがある。
- ・平時の降雨でも道が岩石や流木で荒れる。
- ・その他、危険リスクは無限に有る、無限に湧き起るもの。

自然界の山道には、元々、多少・強弱はあれ、危険要素は常在しています。管理者による途切れの無い常時監視、常時の通行管理は不可能です。そもそも人間が生きる中で遭遇する全ての事態に於いて自己判断の積み重ねがあり、自己責任の上に生命が維持されています。危険可能性を100%排除して、完璧な安全歩行が可能になってからでないと通せないというのであれば、山道のみならず全ての道路が通行禁止となります。

2. 安全と危険の境目は如何に

図－15aのように、安全事象と危険事象とは、明瞭なある一線（ある点）を境目として存在するものではありません、背中合わせになっているものではありません。両者は図－15bのように、その度合いはファジー・グラデーション帯で結ばれているようなものです。現地状況は時々刻々変化・移動し、どこに落ち着くのか、危険がどのように出現するかは人智を超えた自然の成せる技です、いわゆる「神のみぞ知る」世界です。よって、人間を以ってして、100%安全を保障する方策は有り得ないのです。



いわゆる「登山道の管理責任」についての法律解釈についてここで一々論ずるものでありません。ただ、判例を参考にしつつ私の社会通念上の常識からすれば、次の2点が言えます。

- ・自然界の山中は、落石、倒木、地滑り、土砂崩れ・崖崩れ、川の増水、雪崩、落雷等の事象と係る危険は、通常的に発生し得るものであり、その中に分け入る登山はそのような自然の危険性を予め承認する行為である、よって、自らの回避方策を以って対処する必要があり、全ては自己責任——自らが自由な意思に基づいて行動した結果に対する責任は自分にある——に帰結するものである。
- ・登山道への前記同様の自然現象に起因する万が一の事故については、公共団体等の管理者が権限に基づいて意図して管理していた道であっても、怠慢等による瑕疵がない限り、管理者に管理責任は生じない。

危険を承知で自然界の山中に分け入る、いわゆる「登山」行為は、社会的には厳密な自己責任の分野・領域であると考えられます。

3. 望ましき対応の提案

その1；公共団体等から見れば、観光誘客・集客の観点からは、登山道を大いに利用して欲しいと思うだろう、他方で、万が一の事故の際の管理責任追及の多発を懸念することになるだろう。前者と後者はトレードオフの関係にあります。その折り合いに苦心するのが現実だと思います。そこで、敢えて危険の注意喚起、危険回避の啓発を図ろうとするのであれば、登山道の出入り口と中間点に「自己責任」という表示・標識で十分であります。

公共団体等や管理関係機関の持つべき姿勢は次の通りです。

- ・広報媒体に「自己責任」提起の趣旨と重要性を簡潔に明記・明示することです。
- ・管理不十分などと「管理責任」を問う考え方の人は、当地に来る必要はない、来なくても結構である、と毅然とした態度を表明しておくことです。

現実的には、少なくとも前者は明示出来るはずです。

その2；「^{とうりせいけい}桃李成蹊（桃や^{すもも}李の花は美しく、かつ、実はおいしいために自然と人が集まり、自然と道が出来るといこと）」に学ぶことです。古道の入り口を「通行止め」「通行禁止」を以って塞ぐのではなく、「自己責任」標識のみとし、とにかく歩いて貰うことです、歩いて貰うように誘導すれば道は自ずと固まるものであります。繰り返すが、その道を歩きたい人達から歩いて固めて貰うのが最善です。降雨で荒れた状態も人が歩けば歩くほど固められて自然的に整備されます。この事は関係機関から見て、保全管理の負担軽減にも繋がります。反対に、安易に通行止めとすれば、山道故に暫時荒れ果ててしまいます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

出来るだけ、山道に誘導する事は、別の面のメリット・好影響があります。山道歩きは、アップダウンがあり、特別の足元への注力が必要となり時間を要します。歩行スピードは落ちるので歩行時間が長くなります。その分、水・食糧の持参が必要となります。そのことは地元（お店、自販機）からの購入や全体的には宿泊日数の増加に繋がります。このように山道に誘導する事は、多くの関係者にとってメリットを齎すものとなります。

(end)

1. 何といても、「四国八十八か所霊場」遍路です。

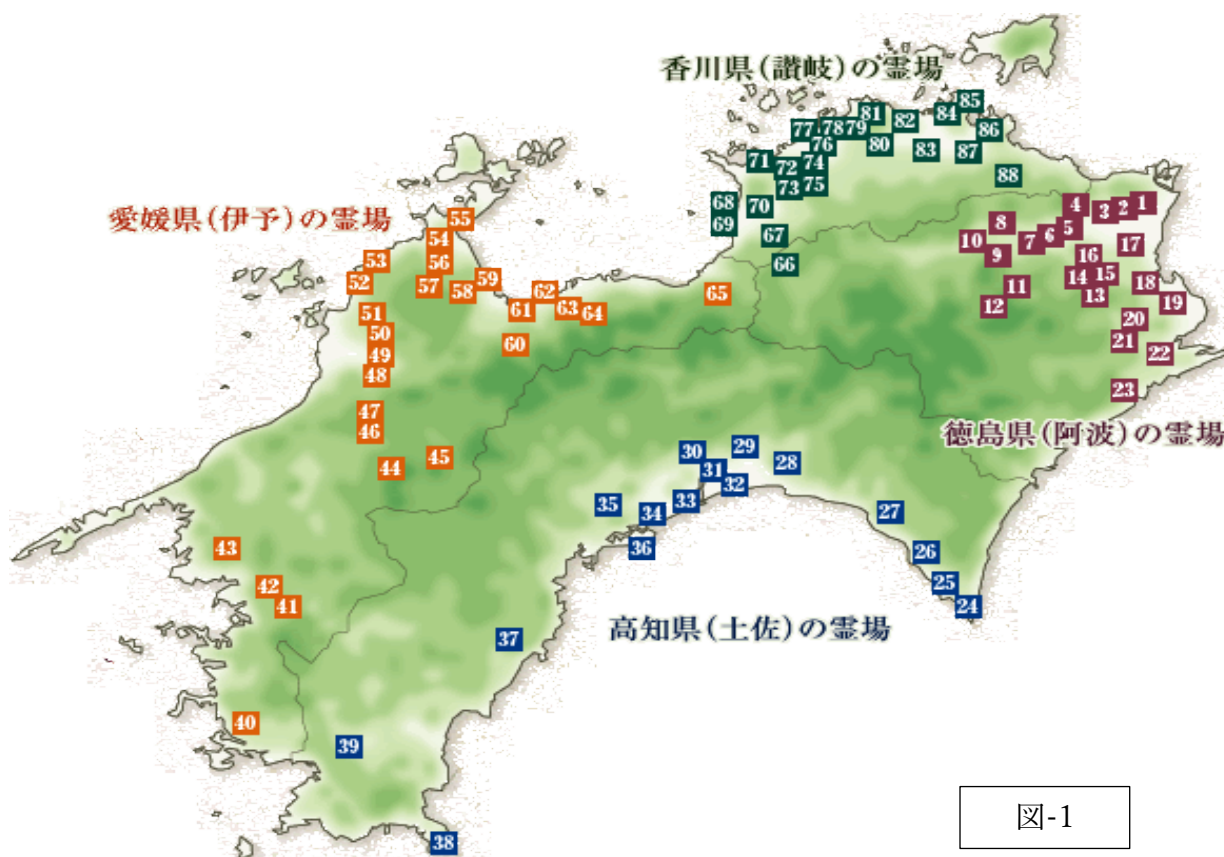


図-1

既述この10年間に14,101kmを歩いた経験から歴史街道・歴史古道・遍路に纏わる所として、一押しの一つを挙げよと言われれば、何と意っても「四国遍路」です。88全札所（全ルート）でなくてもいい、自分が楽しそうなところをピックアップして——区切り打ちという——一度は白衣を着て歩いて欲しい。そして、遍路宿と謂われる民宿に泊まって欲しい、純朴でユニークな人達、料理も美味しい。全国各地から、世界各地から遍路が来て歩いております。お寺・境内の雰囲気といい、古道・山道の状況といい素晴らしい体験が出来ます。歩いて欲しいのです、車では無く！ワンセットを1泊2日、あるいは2泊3日程度として、要所を歩いて廻ればいいのです。図-1は四国八十八ヶ所霊場会HPから拝借したものです。四国遍路に係る情報はインターネットサイトや書籍に溢れています。

歩いて巡礼出来るようにとても有用なガイドブック【66Henro memo-report No010】が販売されており、^{みちしるべ}現地のルートには道標・案内表示が整備されています。

2. 吾が山形県内における三つのコースです。

(1) 一つ目は図-2abのと通りの「高清水通り」です。

○本通りは西川町本道寺「口之宮湯殿山神社」から月山頂上までの約14kmの古道である。

○本通りは、「西川町史編集資料 第六号」等により、下図（旧本道寺から月山まで）の範囲である。

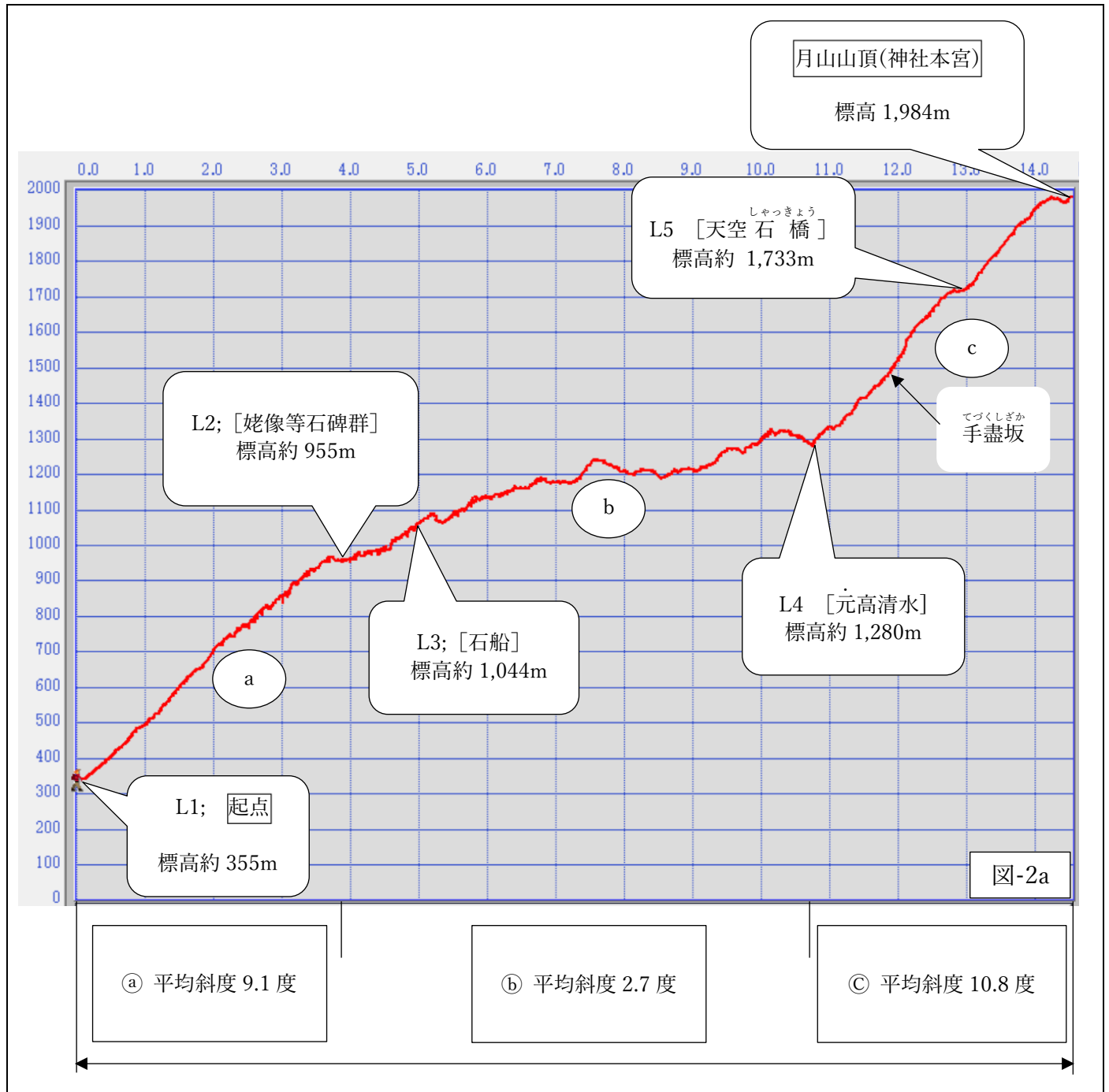
○本通りの傾斜様相はa・b・cの3段階、注目すべき5個所（L1～L5）に対しランドマークを設定した。

○沢・河川の渡渉やV字状に深く切れ込んだキレットは一個所も無い。

みよとしず いしぶね

○水場3箇所「夫婦清水、石船、高清水」があって、流量は少ないが枯れること無く清水が流れ出ている。

○登り口から約2km先はブナ林となり、生育途上の二次林⇒老荘混在林⇒原生林に変化して行く。



五大に宿る不思議が漂う山道！

「元・高清水」までの道沿いに丁石（里程標、一丁間隔約109m）が点在！

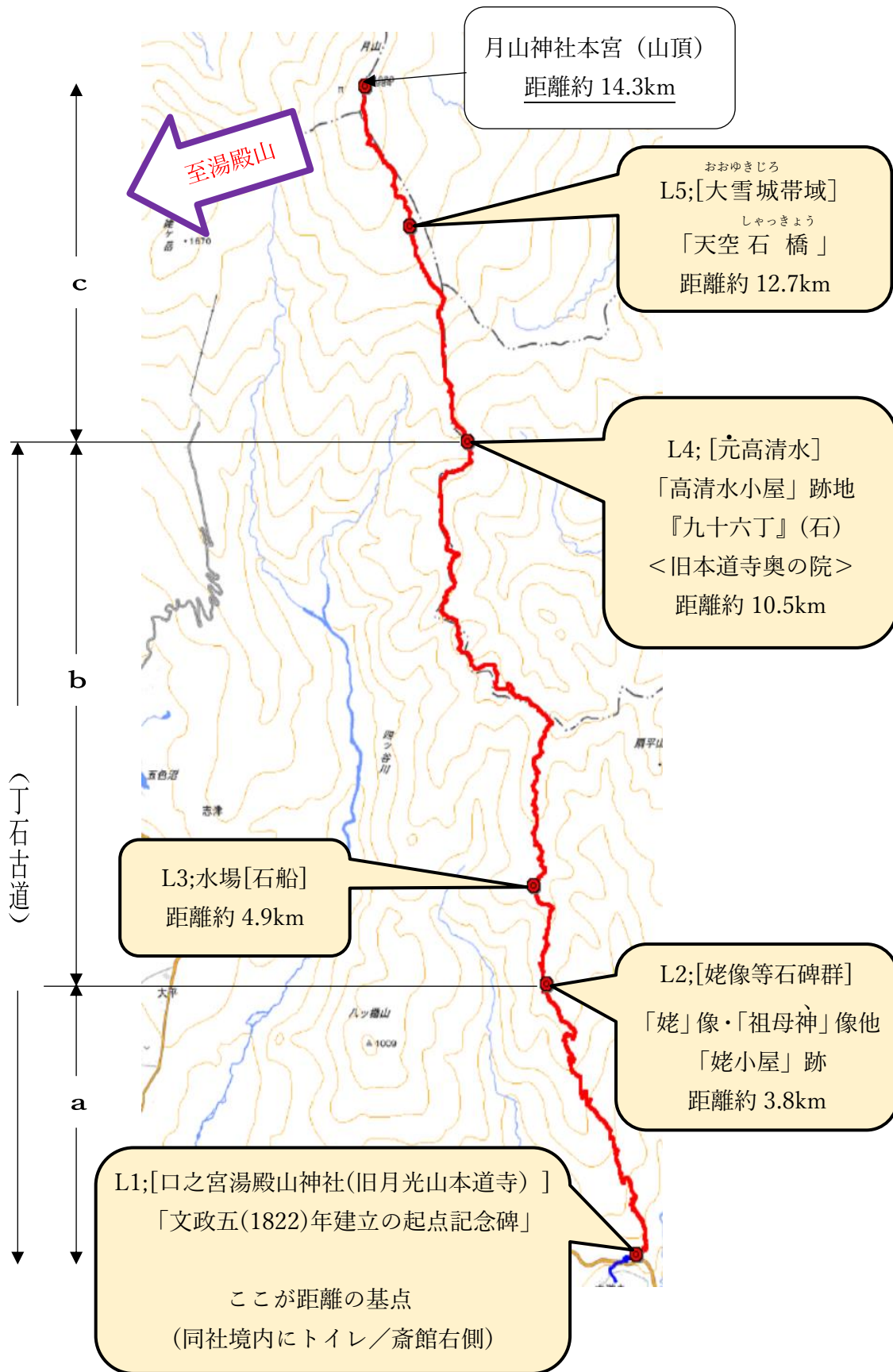


図-2b

図(表)-2c

L1;文政五年基点記念碑

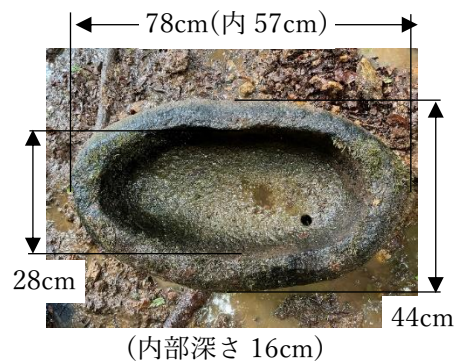


L2;「姥像等石碑群」



奉納祖母神
享保六辛丑天六月八日

L3
:「石船」



為六親
眷屬有
縁無縁
菩提也
正徳六
丙申年
五月日
施主山
形八日町
住人
双羽氏
敬白

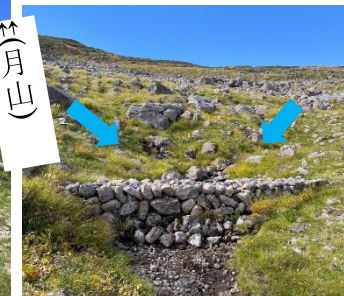
L4
:「高清水小屋」跡地



「九十六丁」(石)
墓石2体

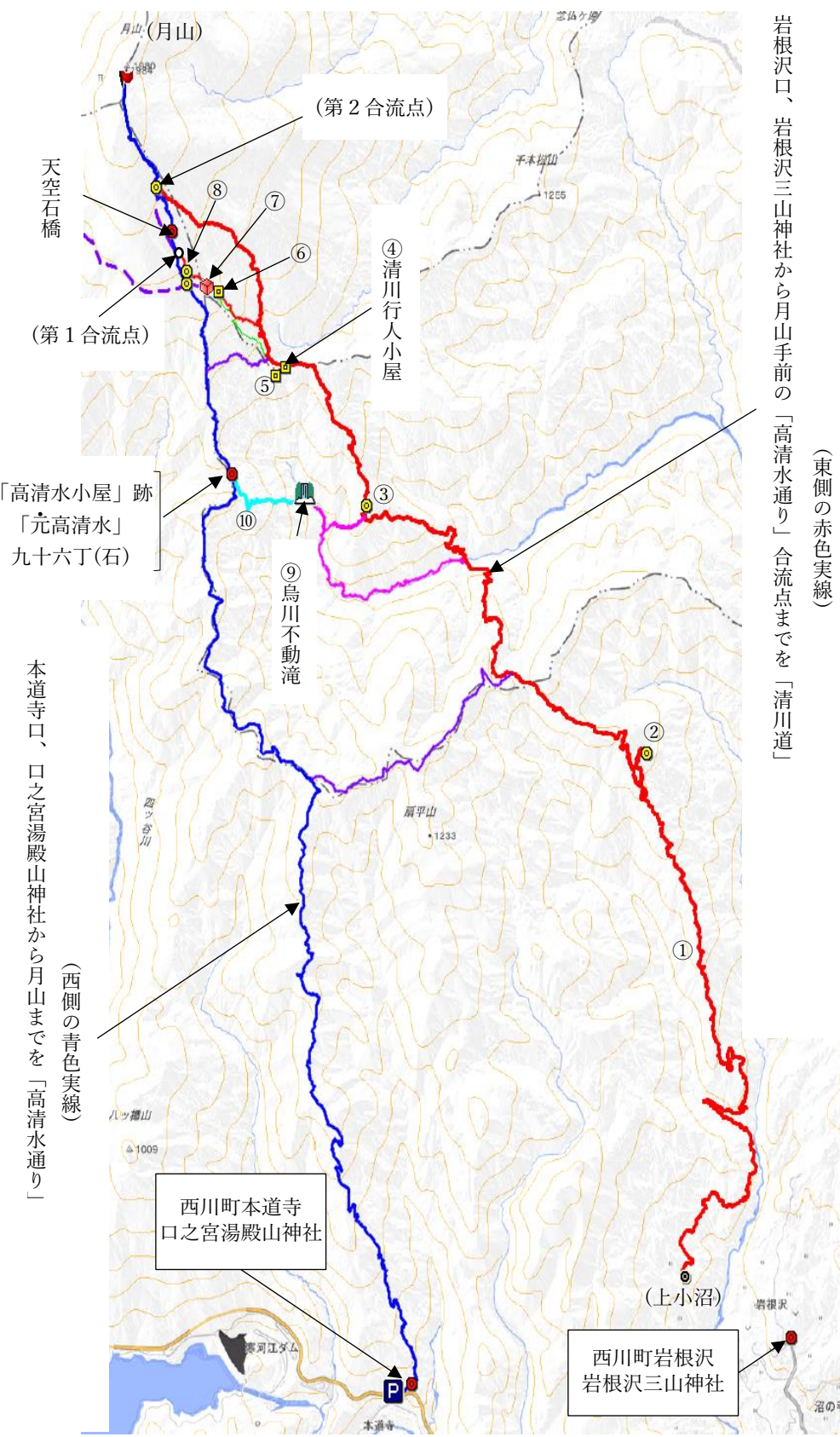


L5
:「天空石橋」



(2) 二つ目は次頁図-3のと通りの「旧六十里越街道」です。

あさひむら観光協会 (<https://www.asahi-kankou.jp/>) ホームページに詳細が記載されており、国土地理院地形図に載せたマップ(pdf)をダウンロード出来ます。山形県西川町と鶴岡市旧あさひ村の関係者が整備しており危険な所はありません。私は、2010(H22)年6月25日(金)から6月27日(月)までの2連泊3日間・鶴岡市庄内神社→山形市八日町誓願寺、同年7月27日(火)から8月2日(月)までの6連泊7日間・宮城県閑上^{ゆりあげ}→山形県湯野浜へのスルーハイクにおいて、本街道全区間を2回にわたり歩いております。

下図の赤色実線は「清川道」 高清水通りと合わせて「高・清フレンドリー古道」	①清川道そのもの
 （東側の赤色実線） （西側の青色実線）	②把松稲荷神社
	③不動明王碑
	④清川行人小屋前石碑群
	⑤清川御所王子社 (五所皇子稲荷神社)
	⑥来名戸神 (来名戸古墳)
	⑦月山・湯殿山 追分碑
	⑧御田の神
	⑨鳥川不動滝域
	⑩秘連古道
図(表)- 2 d	

所々に出羽三山信仰に係る古い石碑・石塔が安置されており、また、小屋跡や戊辰戦争の砲台跡も残存しています。古い石畳も残っています。現地においてはルート案内と説明版も充実しています。



图-3

(3) 三つは図-4のと通りの旧「十三峠」です。

「旧越後米沢街道・十三峠」は、山形県の置賜地方と新潟県の下越地方を結ぶ古道です。「日本奥地紀行」（平凡社）で知られるイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが難儀して旅をした行程の一部であります。――米沢平野は・・・アジアのアルカディア（桃源郷）である。――同交流会（事務局；NPO 法人ここ掘れ^お和^わん話^わん探^{たん}検^{けん}隊）の皆さん方が整備に努めております。ここも険しい危険な所はあり

ません、庚申塔や供養塔、古い石畳も残っています。同図は同会HPより拝借したものです。峠の所は
 国土地理院地形図に GPS トラックログで書いたルートを開示するなど様々な案内マップを掲載していま
 す。私は、同図中のルートについて、まだ一気通貫ハイクはしていないが、鷹巣峠部以外は区切って一
 度は歩いています。

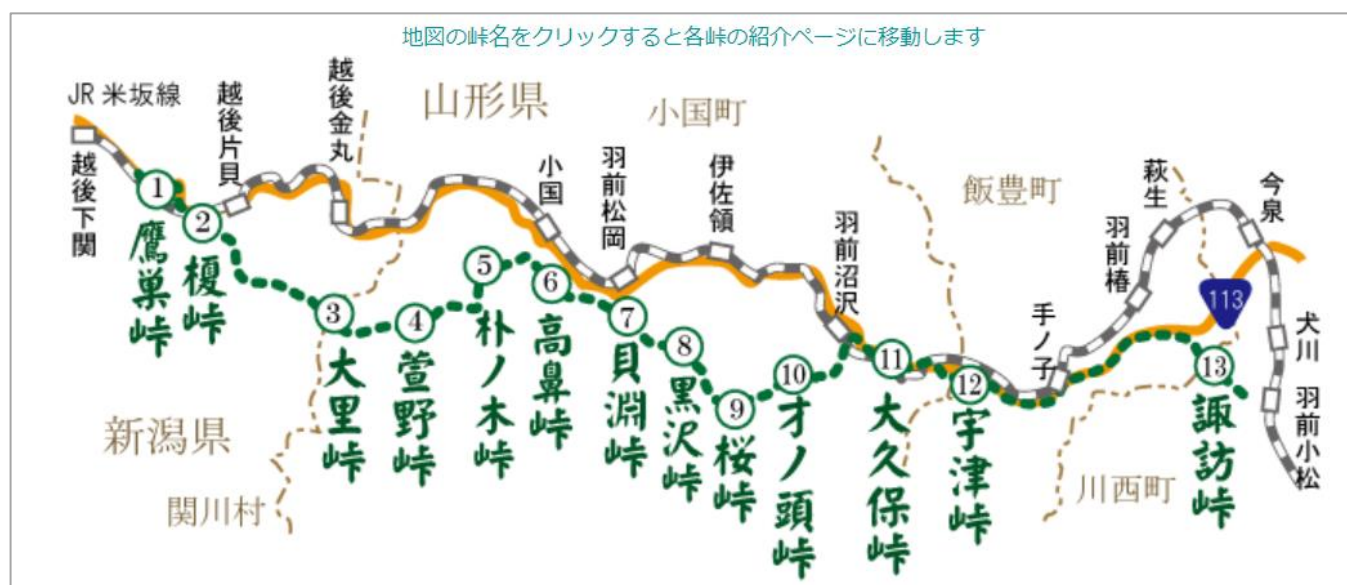


図- 4

おまけとして、

その1；以前、NPO「元気・まちネット」から入手した図-5
 のとおりの山形県内3賢人ルートです。その昔、山形県内を旅し
 た歴史上の人物、¹源義経、²松尾芭蕉、³イザベラ・バードが歩
 いたルート(上記旧「十三峠」と重複)です。国土地理院地形上の
 ルートは「山形県歴史の道 調査報告書」などが手掛かりとなり
 ます。私は殆どを歩いています。

その2；もちろん「出羽百観音霊場」は候補に挙げますが、
 山形県や同県内関係自治体はPRには力を入れているが、四国霊
 場や西国霊場とは比べ物になりません、見劣りします、古道筋
 を歩けるような整備はされていません。(「隣の芝生は青く見え
 る」でもあるが、それが真実である。)



図- 5

(end)

【Henro total-report No12】 スルーハイク遊行中に浮かんだ替え歌

歩き旅の日々は歩くことが毎日の仕事です、歩いていると、千変万化の景色、百人百様のユニークな人達との出会い、楽しいこと難儀なことが交錯し、6根――眼(視覚)・耳(聴覚)・鼻(嗅覚)・舌(味覚)・身(触覚)・意(意識)――が刺激されて様々な雑念・妄想が横切ります。その時々思い浮かんだ言葉をIC(ボイス)レコーダーにランダムに吹き込み(入力し)、宿で短歌や詩に整理して遊んでいます。短歌あるいは俳句の文語文法を格別勉強した訳ではなく、また、花鳥風月の風流を、わび・さびを詠う、季語を織り込むような才能は無く、現代用語・しゃべり言葉を並べただけの味気ないもので、まったくの我流ですが、あれこれと浮かんで来たものを整理しています。

帰宅後、その浮かんで来た・思い付いた創作詩を、歌謡曲や地元は菩提寺の石行寺で習った和讃(叡山流)の原曲をそのままに、歌詞(詩)を入れ替えて、つまり、原曲に歌詞を乗せて、いわゆる替え唄(歌)にして楽しんでいます。詩の対象を図(表)―1のとおり四つに分類しています。

作り方としては、楽譜は、購入したCD添付のものやインターネットショップで購入します、パソコン上の「Adobe Photoshop」ソフトでその楽譜に歌詞(文字)を書き込んでいきます。同表のとおり合計は71曲です。その中では、同じような情景を言葉にするにしても、出来るだけ二度使いとならないように留意しています。替え歌の原曲は数か月位前から覚えて日頃、鼻歌で歌っているものです、出来上がるとラミネートにして自宅の入浴の時に、あるいは年に数回知人から誘われて行くカラオケ屋で楽しんでいます。

例示として、テーマ毎に代表的なものを次頁以降に記載します。

図(表)―1				
対象テーマ大分類	作成曲数	小計	備 考	例示の補足
¹ N;日常の悲喜こもごも	2 1	3 7	詩について、帰宅後に一部補完したもの	N16(民謡調)
² F;ふるさと、当地区の風景	1 6			F13(和讃調)
³ R;歩き旅に直接係る心境	2 5	3 4	詩について、スルーハイク中に完成したもの	R12(唱歌調)
⁴ K;私ごと	9			K08(歌謡曲調)
計	7 1		――	

N16 和気のお茶の間

(原曲「黒田節」)

さーけはーのめーのめーのむーなーらーばー
えがおをーもちーよりーかおーあーわーせー
あなはーいーつもーおだーやーかーでー
かたってーぼんーぐのーわたしーごーとー

ひのーもとーいーちのーこのーやーりーをー
さんーぜをーさかなにーわきのーせーきー
いなーほのーとーくをーつたーえーんーとー
きーくはーなみだのーあなーたーごーとー

のみーとるーほーどにーのむーなーらーばー
あまーたのーはなしーはうずーをまーきー
あしんーにょのーのしーりはひとーりごーとー
かんーなんーしんくをよせーあつめー

こーれぞ×まこーとのーくろーだーぶーし
ちきゅうを×まーわりのーおてーもーとーに
そのひと×こーとがーとうーとーけーれ
すーいも×あまーいもーあじーくーらーべ

一、笑顔を持ち寄り顔合わせ

三、さん ぜ さかな わき
(過去・現在・未来)
世を肴に和気の席

数多の話は渦を巻き

地球を廻りお手元に

二、貴方はいつも穏やかで

稲穂の徳を伝えんと

真如の法を独り言

その一言が尊とけれ

三、語って凡愚の私ごと

聞くは涙の貴方ごと

艱難辛苦を寄せ集め

酸いも甘いも味比べ

(注1) 音符直下の歌詞は、「黒田節 (福岡市の黒田節、誕生の地は京都市伏見)」の1番目の歌詞

(注2) 替え歌の詩は大沼香作 2017 (H29) 年1月23日 (月)

F13 故郷祝い歌—和讃Ver. (原曲「夢和讃」)

山タハウヨヨ

こーのーふーさとのーみなさーまーがー
あいさつーこーそーがきめーどーこーろー
いーちどーかーぎーりーのえんーなーのーでー
けんーそーはーなーれーたふーさーとーにー

山タハウヨヨ

ゆーめーをーはなーびでーうちーあげーるー
とーおーりーすがーりにえしゃーくすーるー
すーぎーしーこーとーなどわきーにおくー
すーみーかーやかーたをかまーえもつー

山タハウヨヨ

ほーしがーしたーえーのーだーいーキャンーバスーにー
つーねのーあいさーつきずーなにかわーりー
もーつとーしりーたーくしゅぎょーくをさーがしー
ぶーんぶーりょーどーいきーがいーまなびー

山タハウヨヨ

きーぼーがちーらばーりーじゅのーもじーさいーたー
たーめーたきーずなーがつよーさをひめーるー
あーけーてびーつくーりーたまーてのーおはーこー
いーのーちなーがらえいのーちをーとじーるー

山タハウヨヨ

かけーらーをーひーろーいーポケットに
いざーほーんばーんーでばかーちから
あーなーたーごーこーろーのーごぼーせい
たのーしーくーしーよーおもーしろく

山タハウヨヨ

さめーずにつづーく(う)ーゆめーみうーたー
なんーでもかなう(う)ーきずーなうーたー
おんぶをからめ(え)ーさんーのうーたー
あかるくつどーう(う)ーいーわーいうーたー

(短歌)

持ち味を霧で吹上げ虹創る
それぞれの生き方書いてカルタ取り
アーチの色はダイバーステイ
互いに学び深まる絆

- 一、このふるさとの 皆様が(8・5)
夢を花火で 打ち上げる(7・5)
星が下絵の 大キャンバスに(7・7)
希望が散らばり 寿の文字咲いた(8・7)
- 二、挨拶こそが 決め処(7・5)
通りすがりに 会釈する(7・5)
常の挨拶 絆に変わり(7・7)
貯めた絆が 強さを秘める(7・7)
いざ本番で ばか力(7・5)
何でも叶う 絆な歌(7・5)
- 三、一度限りの 縁なので(7・5)
過ぎし事など 脇に置く(7・5)
もっと知りたく 珠玉を探し(7・7)
開けてびっくり 玉手のお箱(7・7)
貴方心の 五芒星(7・5)
音譜を絡め 讃の歌(7・5)
- 四、喧噪離れた ふるさに(8・5)
住処館を 構え持つ(7・5)
文武両道 生き甲斐学び(7・7)
命永らえ 命を閉じる(7・7)
楽しくしよう おもしろく(7・5)
明るく集う 祝い歌(7・5)

(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載

(注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作 2015(H27)年6月6日(土)

R12 四国遍路の歴史に足跡

(※A) 一、四国の札所を 小さな丈の
 短い二足で 貫(完)歩を果たす
 どこから生まれる 秘めたる力
 仏と神との 加護の賜物

(※B) 三、多彩なへんろと 時空を溶かす
 地元の皆とは 世情を語って
 弘法大師も 仲間に入る
 再会夢見る 多次元世界

<二つの替え歌>

二、参詣順序に こだわり続け
 歩点を繋いだ 形を見れば
 一筆絵書きの 奇怪な魚
 魔性の美影が 四国に写る

四、魂 揺さぶる 聖なる境地
 長きに栄えた 歴史と文化に
 汗玉落としつ 吾が身を刻む
 理想へ誘う へんろの精華

(※A) [原曲は星の界(よ)・星の世界／讚美歌]



つ きなきみそ ら に き らめくひか り
 し こくのふだ しょ を ち いさなたけ の
 さ さんけいじゅんじょ に こ だわりつづ け
 あ あそのほし か げ き ぼうのすが た
 み じかいにそく で か んぽをはた す
 ほ てんをつない だ か たちをみれ ば
 じ んちははて な し む きゅうのおち に
 ど こからうま れ る ひ めたるちか ら
 ひ とふでえが き の き かいなさか な
 い ぎそのほし か げ き わめもゆか ん
 ほ とけとかみ と の か ごのたまも の
 ま しょうのみか げ が し こくにうつ る

(※B) [原曲は冬の星座／S 2 2 年文部省唱歌]

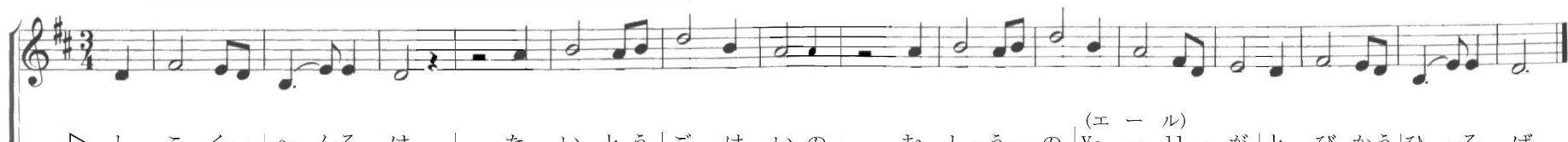


こ がらしとだ え て さ ゆるそらよ り
 た さいなへん ろ と じ くうをとか す
 た ましいゆさ ぶ る せ いなるきょう ち
 ち じゃにふり し く く すしきひか り よ
 じ もとのみな と は せ じょうをかた っ て
 な がきにさか え た れ きしとぶん か に
 も のみないこ へ る し じまのなか に
 こ うぼうだい し も な かまにはい る
 あ せだまおと し つ わ がみをきざ む
 き らめきゆれ つ つ せ いざはめく る
 さ いかいゆめ み る た じげんせか い
 り そうへいざ な う へ んろのせい か

(注1)楽譜はインターネットのフリーサイトより拝借したもの (※2)楽譜直下の歌詞は原曲のもの (注3)替え歌の詩は大沼香作 2015(127)年6月6日(土)

R13 吾が四国へんろ讃歌

(原曲「山路越えて」讃美歌404番)



▷	しこくー	へんろは	たいとう	ごけいの	むしょうの	(エール) Yeーllー	がと	びかう	ひーろ	ば
1	へんろー	みーちは	しきにー	たえて	やまたーに	こえゆーき	ひとよを	つーなぐ		
	うつりー	かーわる	けしきの	なかに	くもみーず	ながれーの	おしえを	まーなぶ		
2	へんろー	やーどの	いちごー	いちえ	はつみーの	おかたーと	かいわが	はーずむ		
	つきぬー	ゆーめを	かたち	したく	かなえーる	ちからーを	みなから	もーらう		
3	へんろー	たーびは	あせがー	たきで	しがらーみ	たちきーる	みそぎの	ぶーたい		
	にしやー	きーたの	さかい	いずこ	(リスターティングゼン Re star ting then	スクラップアンビルド) Sc rap and Build	ほぼこれ	どーうじょう		
▷	しこくー	へんろは	れきしと	しぜんと	われらーが	とけあーう	すてきな	(ワンダーランド) Won der land		

(※1) 禅語の「行雲流水(雲が山に阻まれても、水が岩に邪魔されても、何事もなかったように通り抜けて行く。)」より。

(※2) 遍路菅笠の偈文「迷故三界城、悟故十方空。本来無東西、何処南北」より。

(※3) 禅語の「どんな環境(T.P.O.)も、自分を高めるための自己研鑽の道場である。」より。

▽ 四国へんろは 対等互恵の

無償のYellが 飛び交う広場
(心の基層にある)

一、へんろ道は 四季に耐えて

山・谷越え行き 人世を繋ぐ
山・谷越え行き 景色の中に
山・谷越え行き 景色の中に

二、へんろ宿の 一期一会

初見のお方と 快話が弾む
(初対面) (同志)

尽きぬ夢を 形にしたく

叶える力を 皆から貰う

三、へんろ旅は 汗が滝で

しがらみ断ち切る 襖の舞台

(※2) 西や北の 境界は何処!!

Restarting then

Scrap and Build

(生命力を再起動し再築だ!!)

(※3) 歩々は道場

▽ 四国へんろは

歴史と自然と吾れらが

溶け合う

素敵なWonder Land
(不思議の国)

(注1) 楽譜は「讃美歌21 (日本キリスト教団出版局より)、
作詞：西村清雄、作曲：アメリカ人？」

(注2) 替え歌の詩は大沼香作 2017(!!29)年6月1日 (木)

R26 「へんろ旅人」 (替え歌； 原曲は”縁むすび音頭”)

1. わかーい さーくらが ほーころびにおう ちょっとおめかし
 あるーく まーいにち あーるきがしごと なにがもくてき
 ここーろ ひーろびろ ろーうにゃくなんにょ しこくふだしょに
 へんーろ まーりょくの ルーツポにはまり かみやほとけと

かーおあーわーせ はなしはずんでわらいーもつづく あおーば
 とーいつーめーる こたえうかばずしんぼーうがまん なみーだ
 つーどいーくーる へんろおやどになごみーがしみる みなーの
 うーずをーまーく てんちひととのさかいーめうせた ふしーぎ

わかばの めーもふーいーて えんーをー とりもつ
 こぼれる へーんろーみーち へんーろー たびびと
 もちあじ リースペーグート へんーろー たびびと
 せかいへ とーけてーいーく へんーろー たびびと

えんをとりのもつ うーれー しーーさーよー
 こころなみーだち しーまー もーーよーうー
 いちごいちえを かーたー りーーあーうー
 シャバにもどーりて すーがー すーーがーしー

歩く毎日歩きが仕事 何が目的問い詰める
 答え浮かばず辛抱我慢 涙零れるへんろ道
 へんろ旅人 こころ波立ち 縞模様

心広々老若男女 四国札所に集い来る
 へんろお宿に和みが染みる みんなの持ち味リスペクト
 へんろ旅人 一期一会を 語り合う

へんろ魔力のルツポにはまり 神や仏と渦を巻く
 てんちひと う
 天地人との境目失せた 不思議世界へ溶けて行く
 へんろ旅人 娑婆に戻りて 清々し

(註1)原曲の楽譜は「縁むすび音頭」

作詞・遠藤健二、作曲・遠山敦。楽譜直下の
 歌詞は同楽曲の一番である。

(註2)替え歌の詩は大沼香作 2024(R6)年
 6月30日(日)

K08 「独華（こか）」ーひとりばなーが散り逝く

(原曲「長崎の雨」の替え歌)

さ ぎ り に ー かーす ー ん だ
 ひとつの ー かーら ー だ は
 ひだりか ー みーぎ ー か な
 さかりを ー おーし ー ま ず

が い こ く せー ん ー ー の ー き て き が ー でーじ ま の
 な な い ろ も よ う ー ー ー でー あ ま く て ー し お か ら の
 じー ゆ う じ ざ い ー ー ー でー つ ねー の ー し せー ん は
 ポ ト リ と おー ちー ー ー るー つ ば き の ー ご と く に

そ らー にー なー ー るー さ かー の ー な が さ き い
 ま れー なー あー ー じー と き お り ー き み ょ う な ひ
 さ だー まー らー ー んー だ けー ど こ と あ ら ば た
 い さー ぎー よー ー くー さ ん ぜ を ー み ま も る か

しー ー だー たー み あ な た を ー し の び × × オ ラ ン ダ ざ か を
 か りー やー お とー が × さ わ っ て ー み れ ば × × あ か ご の に お い
 ま し い うー ずー × × き た と えー ひ の × な か ー み ず の な か
 み はー どー こー × × か？ ほ だ い に ー す ま う × × ほ と け を さ が し？

そ ぞ ろ あ る け ば か た さ き に ポ ツ リ ポ ツ リ と に わ か
 な ぞ の す が た よ な に も の か そ れ は お れ だ よ ひ と り
 ど こ か チ グ ハ グ な に も の か そ れ は お れ だ よ あ つ く
 イ エ ス キ リ ス ト し ゅ い ず こ？ み な を た ず ね て お れ は

あ め が ふー るー
 は な が さー くー
 も え る のー さー
 ひ と り ゆー くー

※1;楽譜直下の歌詞は、原曲（歌唱；川中美幸／作詞；たかたかし
 ／作曲；弦哲也）の1番の歌詞
 ※2;替え歌の詩は大沼香作 2018(H30)年6月30日(土)

1. 一つの^{からだ}身は七色模様で
 甘^{あま}くて塩^{しお}辛^{から}の稀^{まれ}な味
 時おり奇妙な光や音が
 触^{さわ}って見れば赤^{あか}子^この匂い
 謎の姿よ何ものか
 それは俺だよ独^{はな}り華”が咲く
2. 左か右かな自由自在で
 常の視線は定まらぬ
 だけど事あらば^{たましい}魂うずき
 たとえ、火の中水の中
 どこかチグハグ何ものか
 それは俺だよ熱く燃えるのさ
3. ^{さか}盛りを惜^{つばき}し^{いさぎよ}まずポトリと落ちる
 椿の如くに^{いさぎよ}潔く
 三世^{みまも}（注1）を見^み護^もる神はどこか？
 菩^{ぼだい}提^{だい}（注2）に住^すまう^{ほとけ}仏を探し？
 イエスキリスト^{しゅ}（注3）主^{しゅ}よい^{しゅ}ずこ？
 皆^{みな}を訪^ひねて俺は独^{ひと}り^ゆ逝く

(注1) 過去世・現在世・未来世、親・子・孫のつながりをいう。
 (注2) 煩悩を断ち切り悟りを得た無上の境地をいう。
 (注3) あらゆるものを包み込むこの宇宙の創造主をいう。

(end)

前段【Henro total-report No12】以外で、遊行中に浮かんで来た雑念から整理した創作短句の一部です。俳句・短歌の何たるやを勉強した訳ではないが、浮かんで来た言葉を並べたものです。ここにはないが他に個別報告書にも記載しております。

1. 身近な隣近所のこと

絆とは、と論ずる事に意味はなく日々のあいさつ続ける力
本物の絆の中身を^あ開け見れば一人ひとり輝くダイヤ
「防災」を安く仕立てる^{ようてい}要諦は^{みな}お隣り皆との日常会話
揺るぎなき契りを結ぶその^{もと}基は一番身近なお隣り近所
本番で力が湧き出るその^{わざ}技は日々の普通の笑みと声掛け

2. 全知全能の放出物語

7・5調と短歌の組み合わせです。

『 さあ逝くぞ生まれたとこへ戻るのさ 吾が残影に後は任せる 』

- 一、互いの特技見たいから ^{みな}皆の強み持ち寄って
あれだこれだと言ううちに 新たな絆生まれ来る
それぞれの持ち味並べ味見して ^{あまから}甘辛合わせ地産の地消
- 二、私の^え得手を絞り出し ^{せんえつ}僭越ながら披露する
貴方の振りに刺激され もっとないかと捜し出す
本領と残余の力が奮い立ち 隠さず逃げずそのまま姿
- 三、陰に日向に辛抱し 前を向いては頑張った
一隅照らす人となり 全知を絞り世に返す
あの世まで持っては行けぬ賢さを 今世に置いて裸で逝くよ
- 四、持って生まれた才能は 授かりものと思うなり
全部を捧げ世に放ち 全部（を）吐き出し空っぽに
逝くまでに俺の全てを出し切れば 抜け殻だけは地球に残る

3. 7・5基調で『山』を詩う

- 一、山は動じず^{たいぜん}泰然と 天空目指し盛り上がる
月が手助け雲ができ 水を育み川を生む
- 二、動物達が跳ね回り 鳥も^{さえず}囀り飛び回る
春は山菜秋きのこ 山の恵みの^{たからやど}宝宿

三、光合成の神様が CO_2 を食べて酸素吐く
草木が育つオアシスは 大樹を育て森を生む
四、木々の装いは葉を織って 春夏に盛え躍如足る
秋に色付き冬枯れる 山紫水明御山の美

4. 7・5基調で『川』を詩う

一、清水の一滴小川生み 中間を集め大河成り
水が動けば男の身 止まった水は女の身
二、あらゆる物の混濁を 合せ砕いて呑み込んで
川は流れて海に出る 祓え戸神が咎を消す
三、邪魔もの交わし下り旅 出会いを求め命懸け
河口で見合いペアリング 真水と潮がエクスタシ
四、自由自在の川流れ 自分で決めた道を行き
四角と丸と争わぬ 山紫水明御川の力

5. 青筋の再生（7・5調）

幼子お尻の青筋が 俺のお尻に生えて来た
幼児返りの生きざまよ 涙もろくてへし折れる
ほぐすに解けず絡まって しがらみ糸が太くなる
あそこにここも小痛みが いよいよ来たか観念か

6. 自由への願望フレーズ

いつも持ち続けたい願望は『自由』です。誰からも縛られない、誰をも縛らない、逝くまで自己真我の確信で生きたいと念じています。自分に言い聞かせている言葉があります。

「 真の協調は、対等互敬(恵)が解る仲間だけに生まれる 」です。

「 自由が至高のお友達、真摯なる真我が真師 」です。

「 自由奔放・融通無碍は命の血潮の盃 」です。

「 独を立ててその個を磨くその術は日々に迷わず真我と対話 」です。

「 人生の推進力は夢で持つ 」です。

「 “自由”を錦の御旗に生涯学習！ 」です。

「 妻を縛り妻から縛られ、夫を縛り夫から縛られ、それが相思相愛とは仮面夫婦 」です。

7. 平凡な日常のあれこれの心情（57577）

人生の高みを目指す推力は 夢と決意のコラボエンジン
人生の縦糸横糸夢で編む 丸く作って花火に乗せる
問いかける吾の人生どう描く 宇宙と対話思うが儘に
内情は^{わたし}私心の清濁を 棒でかき混ぜダイヤを作る
この俺の^{ちゅう}中を貫く大道を 日々に磨いて不朽の軸に
^{おご}奢るなよ我が身の素性立派なの 上には上が多彩な人が
あれこれと他人の事より^{われ}我の事 もっと謙虚にさらなる努力
憧れてへんろの旅に出て見たが 何も浮かばぬ無心の世界
激動の平成時代振り返る 子供育ては戦場模様
六十で定年退職自由の身 日々の仕事が街道歩き
この力どこから来るのか川に聞く 水に聞けよと枯れた石ころ
この胸の神や仏やキリシタン 車座囲み宇宙を語る
祈るとは乞う姿勢ではありませぬ 己に誓い自ら進む
奥深い信仰心とは何ものか^{ぬか}額づくだけで信心なのよ
この俺は歳を食えども鼻たれよ 生まれた頃に戻る哀れさ
いざ往かん終息前夜の花祭り スマホ片手に地球と語る
初顔も対等互啓（恵）のへんろ旅 華嚴世界の^{いんだらもう}因陀羅網
^{ますらお}益荒男と^{おなごゆ}たおやか女性行き混じる 一期一会の壮大ドラマ
集い来る生まれも育ちも違う人 違えばこそ華嚴の仲間
お陽様の白色光が散らばりし 歩禪行場に七色の虹
意味あるの[？]天地と人とどれが先 グラデーションの華嚴が世界
四国から歩点の道を高野へと へんろに響く大師のこだま
最終日結願ロード黙々と ただひたすらのお四国へんろ
色付きの多重人格アベコベよ へんろで^も揉まれ^ぶ益々振れる
いつまでも満開あれと思うなよ 萎み枯れるは世の常ならん

8. 愚痴（7・5調）

あなたと俺は偉うのに
俺がオレ我と牙を剥き 俺だ俺だと胸を張る
仮面を被り悪魔なる そんな人らが跋扈する
専門馬鹿が荒探し 頭でっかち口に泡
^{あほうじ}ア縫自グルの巣窟だ 地元地域は見苦しい
社交辞令でこんにちは 外交辞令でこんばんは
あなたと^{わし}私は別ものだ

9.一人の歩き旅

(5-7-5-7-7)

大沼の歩く目的何とした かんしゃくげん 癩癩源のありかを潰す つぶ
街道をひたすら歩く目的は 邪鬼の心の洗濯修業

(7・5)

にせ 偽の社会と一時は いつとき きれいさっぱり縁を切る
新たな人を追い求め 一期一会の爽やかさ

10. 私が好きな歌

(1) 一つ目は、人との新しい出会いを一期一会の心としているが、その心情を見事に歌いあげた中島みゆきさん（作詞・作曲&歌唱）のズバリ「一期一会」という歌（図-1）の紹介です。「人間好きになりたいために、旅を続けてゆくのでしょうか」のフレーズは私の気持ちとぴったりです。

一期一会

見たこともない空の色 見たこともない海の色
見たこともない野を越えて 見たこともない人に会う
急いで道をゆく人もあり
泣き泣き 道をゆく人も
忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

見たこともない月の下 見たこともない枝の下
見たこともない軒の下 見たこともない酒を汲む
人間好きになりたいために
旅を続けてゆくのでしょうか
忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

一期一会の はかなさつらさ
人恋しさをつのらせる

忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

(以下、1オクターブあげる)
忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

忘れないで わたしのことより あなたのえがおを わすれないで
(※2) あなたのえがおを わすれないで

図-1

(2) 二つ目は、日本のロックバンド「THE ALFEE (ジ・アルフィー)」の「今日のつづきが未来になる」(作詞・作曲；高見沢俊彦)が大好きです。歌詞の中の特に「・・・人生に勝ち負けなどない どれだけ自由に生きたのか・・・」のフレーズがとてもいいですね、まったく同感です。

昨日のつづきが今日になり
今日のつづきが明日になる
そんな事の繰り返しが人生という旅
毎日頑張らなくていい
夢をポケットに詰め込んで
ゆっくり歩いてゆけばいい
自分のペースで・・・
そして春の日の風のように
夏の白い雲のように
自由な旅人になりたい
どこまでも広がる青空に
ずっと遠い未来描いていた
だけどそばに君がいるだけで
冷たい雨にも耐えられる気がした
昨日のつづきが現在(イマ)になり
今日のつづきが未来(ミライ)になる

当たり前の素晴らしい一日
もう一度やり直せたとして
もう戻りたいと思わない
迷い悩み歩いてきたこと
誇りに思うから
毎日張らなくていい
時々振り返ってみるのさ
懐かしい友や恋人たち
優しく微笑むよ
いつか秋の寂しげな夕陽も
冬の静かな雪景色も
大切な思い出に変わるよ
永遠につづくものなどない
若い日の恋が終わるように
人生もいつか幕を下ろす
その日その時まで
愛を歌っていたい
昨日のつづきが現在(イマ)になり

今日のつづきが未来(ミライ) になる
当たり前の素晴らしい一日
人生に勝ち負けなどない
どれだけ自由に生きたのか
だから君との青春は未だ終わらない
どこまでも広がる青空に
二人の未来描いて来た
そうさそばに君がいるだけで
どんな夢も掴める気がした
昨日のつづきが今日になり
今日のつづきが明日になる
何気ないほど・・・大切な一日
当たり前の素晴らしい一日

(end)

以上のとおりの「へんろ」で最終的には何を得たのか？ ご利益というものはあったのか？ ということについてです。

帰宅し娑婆に戻って何か人間性が向上したのか？ と自問します、しかし、何も変わりません、何も変わらないと自覚出来ます、あの歩き続けた長期間は何だったのか？ とまた自問します、また、こっそりと“少しは立派になったのではないか？” とまた自問しますが、やはり変わりはないのです。それはすなわち金銭的にも精神的にも大層無駄なことをやって来たということです。アクセルにもブレーキにも『遊び』が必要、人生の遊びはすなわち潤滑油も必要だよ、と強がりと言った処で言葉遊びに過ぎないのです！ 天皇陛下も総理大臣も死にます、憎まれっ子世に憚るという者も大概是平均寿命でしょう、私はただの人故に平均寿命で尽きることでしょう。

しかし、望みもあります。図－1は隣接知人宅内の梅の老木です、幹部分は一見、完全に枯れ果てた肌合いですが、春一番、途中から伸びた若枝に見事な白い花が咲き、大きな実を付けます。図－2は中桜田地内知人宅内の栗の老木です、幹部分の中心部は朽ち果て外皮1枚で持っています、梅同様に枯れた姿ですが、上半身から伸びた若枝に見事な栗がなります。いずれも半分よれよれですが、半分は活力が漲みなぎっています。

また、図－3は自宅近くの県営公園内の雪に押された孟宗竹の様子です、中央写真は根本付近で折れた一本とそれよりも細くても折れないものを含み先端が地面に着いてしまった竹群です。その周りの写真は折れた処の状態です。着目したいのは、頑張っても折れないものではなく、折れて一見バラバラ状態、竹の体ていを成していないが、かろうじて筋を通して息づいており、これに同情したくなります。



図－1



図－2



図－3

私の人生終盤はこの梅と栗と竹の老若混合、強弱同居に倣い^{なら}最後の悪あがきをしたく、あれやこれやの作戦を練っています。

そして、「対等互敬（恵）」を真に理解している人だけとのお付き合いをします。口八丁手八丁の「指先と口先」だけの性格やマンキタゲ^{や き も ち ねい}佞奸根性は遠ざけて、真に誠実な人——至誠・正直^{せいちよく}な人だけと楽しく生きて行きたいものです。

還暦過ぎてあの世行寸前まで仕事（収入を得る）をやっているは数多ありますが、私は、還暦の定年退職を機にこの15年間は遊び三昧でした。

.....

最後に、このような人間でありたい

「不_レ入_二自縫袋_一」（ふにゅうじほうたい）自ら縫った袋に入らない。

「不_レ縫_二自凜立_一」（ふほうじりんりつ）自らを自らが縫わずして凜と立つ

山形県山形市内在住（大沼^{かおる} 香）

（完）